

2019 年度 修士論文

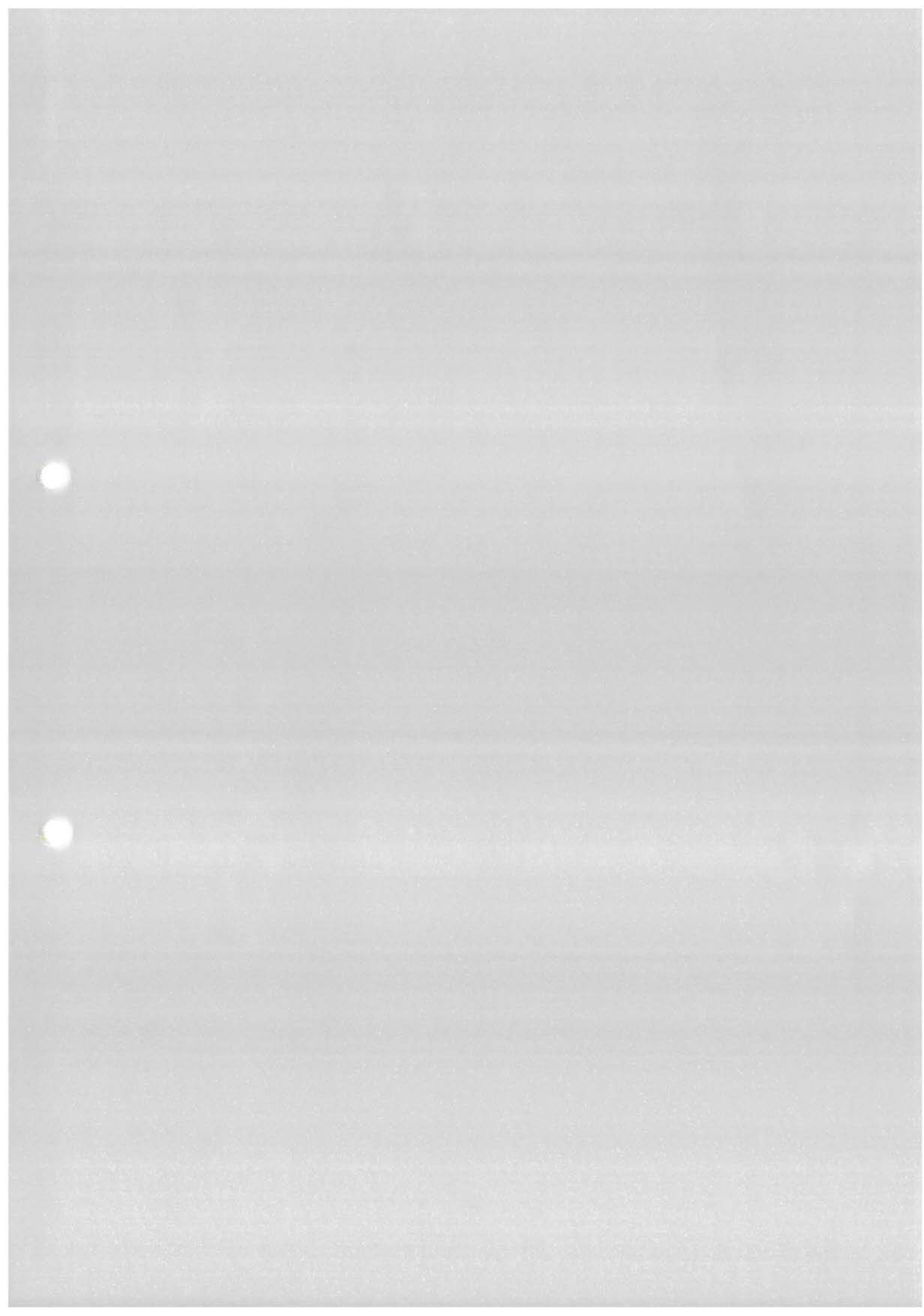
多世代ワークショップの企画と実施を通じた
岐阜県中津川市加子母地区における女性活動団体に関する研究

A Study on Women's Activity Groups in Kashimo, Gifu Prefecture,
Through Planning and Implementation of a Multi-Generational Workshop

指導教員
名古屋工業大学 社会工学専攻
藤岡伸子 教授

工学研究科 社会工学専攻 建築・デザイン分野
2018 年度入学 30415095
山崎有香

2020 年 1 月 31 日 提出



多世代ワークショップの企画と実施を通じた岐阜県中津川市加子母地区における女性活動団体に関する研究

指導教員 藤岡 伸子 教授

山崎 有香

1. 研究の背景と目的 岐阜県中津川市にある中山間地域加子母には、女性たちの交流の場である「婦人会」が設置されていた。しかし、2017年の解散以降、加子母地区における女性活動団体同士の交流は無くなりつつあり、危機感を持った女性たちは新しく、加子母むらづくり協議会（以下、「むら協」）の中に「女性分科会」を設置した。（表1）

本研究は、「女性分科会」及び、様々な規模・目的で自律的に活動する女性活動団体同士の交流のあり方を模索するとともに、さらなる地域交流活動の発展促進の一助とすることを目的とする。

2. 研究の対象と流れ まず、「女性分科会」及び、加子母地区内で住民から明確に認知されている10以上の女性活動団体に対して、活動の現状や問題点、ニーズを把握するため、聞き取り調査を実施する。次に、女性同士の情報・意見交換の場として多世代ワークショップ（以下、多世代WS）を行う。さらに、本ワークショップ参加者の交流に対するニーズを把握し、団体同士の協働の可能性を探るためにアンケート調査を実施する。最後に、女性活動団体間の交流の現状や今後の可能性について検討する。

3. 聞き取り調査 本研究では、加子母地区の女性活動の中心で、「むら協」の一組織である「女性分科会」と、有志で自律的に活動している9団体（表2のA-I）を調査対象とする。これらを、活動の目的別に《教育》《子育て》《高齢者ケア》《情報発信》《防災》《文化継承（郷土料理）》の6つにカテゴリー分けをした。「女性分科会」の変遷を表1、9団体の活動の目的を表2、互いの関係を図1に示す。各女性活動団体のニーズと課題を下記に詳述する。

3.1 加子母むらづくり協議会「女性分科会」 2017年、女性たちの多忙化などの理由で「婦人会」が解散し、団体同士の交流の希薄化に危険意識を持った女性たちは、2017年10月に「むら協」の一企画として「女性懇談会」を開催した。その後、2019年から本格的に「女性分科会」として活動が発足した。この組織は、女性同士のつながりや世代間交流を通して、女性ならではの視点をむらづくりに活かすことを目的としている。会長のF氏は、2018年3月に開催した第2回女性懇談会で、以下について発言した：①「加子母地区で活動する女性活動団体の詳細を互いに把握していない」、②「子育て世代にどんな人がいるのか知らない。」これにより、加

表1 女性分科会・年表

年月	2005 04	2017 04	2017 10	2018 03	2018 07	2019 10
変遷	婦人会	●解散	○中津川市と合併	女性懇談会 ●第2回女性懇談会	女性分科会	女性分科会 ●第4回女性分科会

子母地区は人口3,000名弱の小規模なコミュニティで、各団体の構成員も少数であるにもかかわらず、女性活動団体同士で活動を知らない現状が明らかとなり、それに対し、会長F氏は問題意識を表明した。

3.2 《教育》

A. 女性林業団体「恵那こぶしの会」 ニーズとして、将来的に、子どもたちに山遊びや川遊びの楽しさと危険を正しく認知させたい、また若い世代にも郷土料理を伝承したいと考えている。しかし、現状・課題として、登録メンバーは22名だが、実質活動しているのは5、6名にとどまり、活動継続が困難になることが懸念されている。さらに、少子化や習い事の多様化に伴って、彼女たちの主たる活動である森林教室に参加する児童数も伸び悩んでいる。

B. 加子母図書室ボランティア「ひなたぼっこ」 今後、女性たちが持っている能力やスキルを発揮しながら、地域住民が愛着を持てる居場所（サードプレイス）を作りたいとしている。また、同団体主催のイベントをさらに広く周知していきたいとしており、後述する《情報発信》団体Gの協力を得ることも解決策の一つとして考えられる。課題点として、男性たちや高齢者の図書室利用率が低いこと、《教育》団体Aと同様に、マンパワー不足を挙げている。

C. 見守り隊 後継者不足のため、当団体と《教育》団体Aの代表はU氏が兼任しているが、活動の継承について、義務感による継続は望んでいない。

3.3 《子育て》

D. はっぴーたん 二人の未就園児を抱える代表のK氏は、同じく未就園児を持つ母親の居場所を作るため、「女性分科会」会長F氏の協力を得て、2018年に立ち上げた。子どもの体調不良などによって、活動回数やメンバーの参加率は不規則な現状にあるが、今後も活動を継続したいと考えている。

E. 加子母子育てクラブ「くるりんぱ」 《子育て》団体Dに対して、当団体は未就園児の居場所づくりを目的としている。設立当時、公園に遊具は無く、雨でも過ごせる場所が無かったため、発足に至った。課題点として、参加者がいない日もあること、スタッフの確保が難しいことが挙げられた。しかし、制度¹の都合上、活動日数は減らせないとしている。

表2 女性活動団体の活動の目的

(カテゴリー)	《教育》			《子育て》		《高齢者ケア》	《情報発信》	《防災》	《文化伝承》(郷土料理)
記号	A	B	C	D	E	F	G	H	I
a. 団体名	恵那こぶしの会	ひなたぼっこ	見守り隊	はっぴーたん	くるりんば	うさぎ会	かしも通信	日赤女性奉仕団	わらびの会
b. 活動の目的	山の恵みを体感 豊かな山を次世代へ繋げる	誰もが利用しやすい図書室を目指す	お世話になった小学校に恩返しをしたい	未就園児を持つ母親たちの居場所をつくる	未就園児たちの居場所をつくる	「中間世代」 ¹⁾ の人たちの居場所をつくる	加子母に特化した情報誌を作る	元々デイサービスのボランティア活動	料理を通して色々な人と知り合う

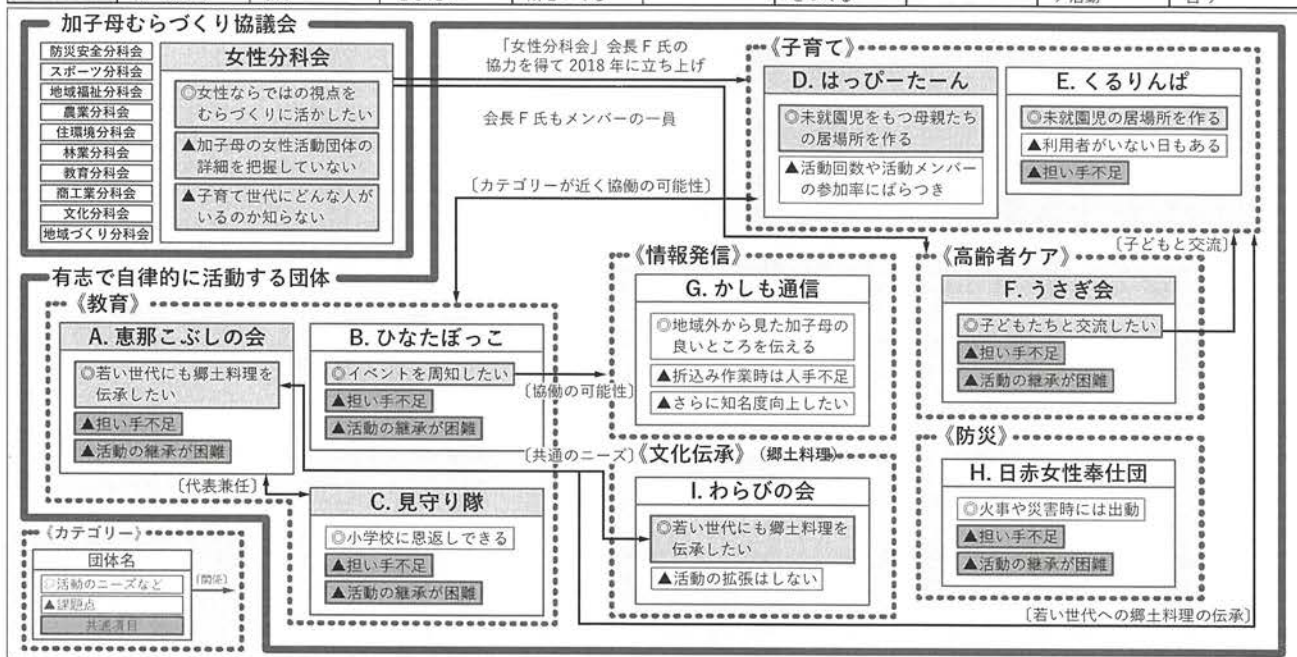


図1 加子母地区における女性活動団体の詳細関係図

3.4 《高齢者ケア》

F. 高齢者サロン「うさぎ会」 この団体の立ち上げには「女性分科会」会長F氏も関わっており、活動メンバーにも含まれている。今後のニーズとして、子どもとの交流を挙げており、《子育て》団体D・Eとの協働も効果的であると考えられる。課題点は《教育》団体A・Cと同様で、活動の継続は困難だが、義務による継承は望んでいない。

3.5 《情報発信》

G. かしも通信 他の団体とは異なり、活動メンバーのほとんどは加子母地区へのIターン者・Uターン者で、地域の外から見た加子母の良いところを伝えることに重点を置いている。課題点として、知名度向上と折り込み作業の人手不足を挙げている。

3.6 《防災》

H. 日赤女性奉仕団 活動メンバーは、加子母の全10区から一人ずつ選出された任期2年の役員10名と有志で構成されている。また、活動内容の一つに、火事や災害時に行政から要請があれば出動が義務付けられているなど、活動は一部制限されている。

3.7 《文化伝承（郷土料理）》

I. わらびの会 構成員は60代後半7名の同世代で、将来的に、これ以上メンバーを増やすことはないとしており、理由として、人数の増加によって活動日の決定が困難になることを挙げている。しかし、活動の拡張はしないとしながらも、《教育》団体Aと同様に伝統料理を若い世代へ伝えたいとしている。当団体と《教育》団体A、《子育て》団体D・Eで、郷土料理の伝承について協働の可能性が見える。

3.8 小結

調査から、各団体の共通点が確認できた。まず、今後の活動方針として、「今まで通り団体内の雰囲気維持しつつ、負担無く続けていきたい」と考えていること、課題点として「担い手不足」や「活動の後継者不足」などが挙げられた。

今後の展望として、女性活動団体それぞれの立ち位置を明確化し、カテゴリー分けをすることで、各団体が掲げる目的や共通の課題点に対して、お互いに補完的な関係を築いて活動できる可能性がある。

4. 多世代ワークショップの企画

4.1 ワークショップのテーマ 聞き取り調査から、比較的小規模なコミュニティ規模が小さく、各団体の構成員が少ない加子母地区内でも団体同士の活動を知らず、つながりも希薄であることが再確認できた。それを踏まえ、以下のテーマを掲げた多世代WSを計画し、「女性分科会」会長F氏に提案し、賛同を得た：①「それぞれの団体が他団体の活動を知る」、②「今後、自分たちが地域でできることを考える。」

4.2 ワークショップの企画 「女性分科会」の後援を受け、多世代WSを「第4回女性分科会」と位置づけた。ワークショップの開催日時や場所の選定、参加者の募集方法、タイムスケジュールや内容を、複数回の協議を重ねて決定した。ワークショップの概要を表3に示す。

4.3 団体紹介冊子の作成 多世代WSのテーマ①である「それぞれの団体が他団体の活動を知る」を効果的にするため、聞き取り調査を実施した9つの女性活動団体をまとめた『団体紹介冊子』の作成・配布を提案した。「活動メンバー」「活動のきっかけ」

表3 多世代ワークショップ・概要

日付	2019年10月30日(水)
時間	19時30分~21時00分 (受付開始:19時/全行程1時間30分)
場所	加子母研修交流施設「ふれあいのやかた」2階
参加者	子育て世代の方から高齢の方まで 女性分科会に所属する方、下記団体に所属する方 うさぎ会/ひなたぼっこ/はっぴーたん/わらびの会/かしも通信 恵那こぶしの会/くるりんぱ/見守り隊/日赤女性奉仕団
内容	・加子母の地域資源を発見、共有する ・立場や役職の垣根を超えて、気軽におしゃべりしながら「これから、わたしたちができること」を一緒に考える
主催	名古屋工業大学大学院 藤岡研究室
後援	加子母むらづくり協議会 女性分科会



図2 作成した冊子

「活動内容」「活動日時・場所」「対象者・利用者」「やりたいこと・お困りごと」「活動写真」「団体代表連絡先」を記載したA5、20ページの冊子を多世代WSの資料として事前に作成し、各女性活動団体の代表者に内容の確認を済ませた上で、ワークショップ当日に参加者へ配布した。(図2)

5. 多世代ワークショップの実施

5.1 グループワーク グループから出た主な意見を表4に示す。チーム「人魚姫」では、「住みよい加子母にしよまいかい」というテーマを掲げ、団体の交流や協働を通して、昔からある加子母の伝統料理を若い人たちに伝えるきっかけを与える案が出た。ワークショップの会場の様子を図3、グループワークで作成されたシートの一部を図4に示す。

5.2 総括 多世代WSの総括として、「女性分科会」会長F氏は、普段関わりを持たない属性の人々が集まることで、予期せぬ相乗効果が生じることの重要性について言及し、「女性分科会」に関わる人や団体の多様性が重要である認識を改めて明示した。

6. アンケート調査

6.1 調査概要 参加者の多世代交流に対するニーズを把握し、団体同士の協働の可能性を探るためにアンケート調査を実施した。調査の概要を表5に示す。

表5 アンケート調査・調査項目

配布方法	ワークショップの最後に参加者全員にアンケートを記述してもらい、その場で回収した
調査対象	参加者21名(回収率100%)
調査項目	基本情報【選択形式】 (1)年齢 (2)職業
	多世代ワークショップについて【選択・自由記述】 (1)今回参加した理由 (2)参加して感じたこと、気づいたこと (3)次回も参加したいか (4)3)についてなぜそう思うのか

表4 多世代ワークショップ・グループワーク

白雪姫：「つながる」
・子どもやお年寄りの情報を知らない ・それぞれの団体やグループが手足を伸ばしていくと、いろんなところでつながって、いろんな活動ができる(一緒に何かをするコラボ活動)
シンデレラ：「楽しく続ける」
・一度始めた活動を楽しく続けたい! ・チラシで告知することも大事だけど、直接顔を合わせて「一緒にやらない?」と声をかけることで、グループ同士のつながりを地域で広げていけるといいな
眠り姫：「加子母がもっと楽しくなる」
・子ども連れでも、わかりやすい内容で行きやすい場や、ちょっとしたことをならえる場が欲しい ・団体がどこかと一緒に「生き方が楽しくなる」ことにつながるというな
人魚姫：「住みよい加子母にしよまいかい」
・昔からある料理を若い人たちに伝えていくために、行事に関連する料理を作ってみよまいかい ・お年寄りと交流しながら作ることで、より良い住みよい加子母になるのでは?
髪長姫：「思っていること感じていること」
・こういう集まりに出る人が、同じ顔ばかりになっている ・役が多すぎて忙しい(掛け持ちしている) ・もう少し役が分担されて、幅広い世代で集まれるといいな



図3 会場の様子



図4 グループワーク・シート

6.2 調査結果・基本情報

①年齢 20代と80代の回答は無く、参加者21名中71.4%に当たる15名が50-60代で、本ワークショップの参加年齢層は比較的高かった。(図5)
②職業 専業主婦の割合が一番高いが61.9%にとどまり、約4割の女性たちは働きながらも地域活動に携わろうとしていることが確認できた。(図6)

6.3 調査結果・多世代ワークショップについて

①参加理由 ワークショップの参加理由について、「その他」の回答率が37.5%と一番高く、明記したものの中には「責任」や「通知や案内が来たから」という回答もあり、一部の参加者は義務感によって参加していた。(図7)

②参加して感じたこと、気づいたこと 18件の回答を趣旨ごとに区切り、30センテンスに細分した。さらに、[発見][疑問][提案][願望][感想]の5つのカテゴリーに分類した。内容を表6に示す。30文中14文の46.7%が「発見」にあたり、約半数の参加者が他団体の活動内容に興味関心を示した。「疑問」では、団体の参加資格の有無を確認するものや、「少子化社会の中で、子育て世代を対象とした団体が2つも必要なのか」と指摘する意見もあり、各団体の運営方針や体制を見直す必要があると考えられる。「提案」と「願望」では、団体の広報について、冊子の配布や各団体の名刺の作成・配布が有効ではないかと提案する声もあり、冊子の有用性が確認でき、発展の余地が見出された。

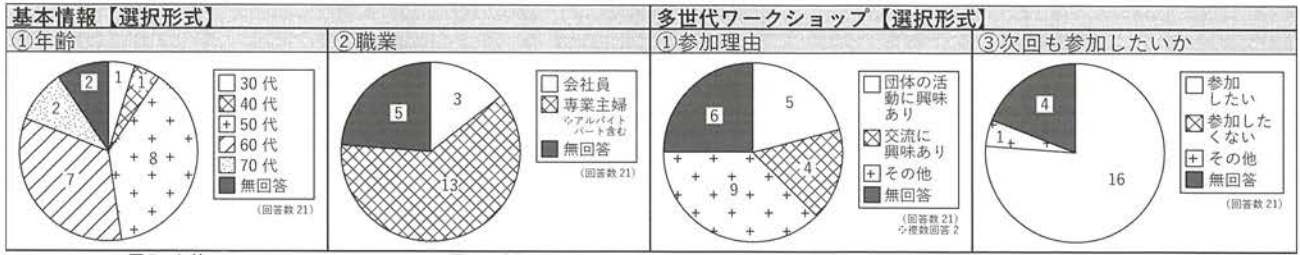


図5 年齢

図6 職業

図7 参加理由

図8 次回の参加希望

表6 参加して感じたこと、気づいたこと

表7 次回の参加希望

多世代ワークショップ【自由記述形式】		多世代ワークショップ【自由記述形式】	
②参加して感じたこと、気づいたこと		④次回も参加を希望する理由	
分類項目	自由記述	分類項目	自由記述
発見 (回答数 14)	<ul style="list-style-type: none"> ・加子母の中にたくさんの活動と、それを生き生きと行っている人たちがたくさんみえることがよくわかりました。 ・加子母にこんなグループがあって、こんな内容のことをしていることが、新しい発見でした。 ・若い人の考えやいろんな活動内容がわかって良かった。 ・加子母で名前を聞く会ではあったけど、今回冊子を見て内容等、初めて知ることばかりで良かったと思います。 	楽しい (回答数 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・思った以上に楽しかった。 ・色々な話が聞けて、おしゃべりできて楽しいです。
疑問 (回答数 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体で、資格は必要なのか。 ・保険など、どうしているのか。 ・「くるりんぱ」と「はっぴーたん」と子育て中利用で、2つ必要なのでしょうか。(子どもが少ない中) 	推奨 (回答数 1)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に子どもが学校を卒業すると交流の場がぐっと減るので、こういう場があると色々な人と会話する機会が増えるのいいと思います。
提案 (回答数 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・私は2つの団体に入っていますが、他の団体の人と一緒に活動することがもっとできるのではまいかと思いました。 ・あと、ささゆりボランティア(社協の配色サービス)という団体もありますよ。 ・各団体で名刺を作って配って活動を知ってもらおうとつながりが広がるかも? 	提案 (回答数 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・タダ、座っているのが辛かったです。イスの方がいいです。 ・今回は初めてだったので、始動に時間がかかりましたが、次回は早いかな?(どういものかわからなかったで…)
願望 (回答数 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体でコラボするといいネ ・もっといろんな人にも知ってもらえるといいなと思いました。 ・今日のこの会のまとめみたいなのを作られたら欲しい!! です。 ・知らない人も多いと思うので発表でも出ていましたが、色々な人に冊子が配られるといいと思います。 	願望 (回答数 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも「つながり」を大事にしていきたいです。 ・もっと色々なことを知りたいです。 ・加子母の人たちの考えを聞きたい。 ・予定が合えば、参加したい。
感想 (回答数 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・広がっていく何かのきっかけになると思います。 ・団体の活動内容を知らなくて、恥ずかしい… ・初めての参加でしたが、みなさん活発に活動しておられ喜ばしい。 ・地域を良くしたいという同じ想いで活動しているんだということを感じました。 	発見 (回答数 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な会の活動内容(情報)がわかり、頭が少しやわらかくなったように思います。 ・自分たちの団体だけの活動にとどまらない事が地域のために生かされていくと思います。 ・普段は家事と仕事で地域のことを知っているようで知らないことが多いです。 ・知らない人と会えるから。
		感謝 (回答数 4)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生さんたちが親切で嬉しかったです。 ・ありがとうございました。

③次回の参加希望 ①参加理由では、責任や義務感による回答もあったが、参加後は肯定的な展開がみられ、「次回も参加したい」と回答したのは16件の76.2%で、「参加したくない」とする回答は皆無であった。「その他」は1件で、時間があれば参加したいとし、前向きな姿勢が確認できた。(図8)

④次回も参加を希望する理由 ②と同様に、要旨ごとに回答14件を20センテンスに細分し、[楽しい][推奨][提案][願望][発見][感謝]の6カテゴリーに分けた。詳細を表7に示す。[楽しい]では交流を楽しむ声や、[推奨]・[発見]から子どもの学校卒業や仕事と家事に追われて、地域活動に関する情報に触れる機会が減少する傾向にあることがわかった。[願望]ワークショップの参加者だけでなく、地域活動に参加しない女性たちや男性からも意見を聞きたいというコメントもあり、多世代WSを多様な地域住民に広める必要があるとわかった。

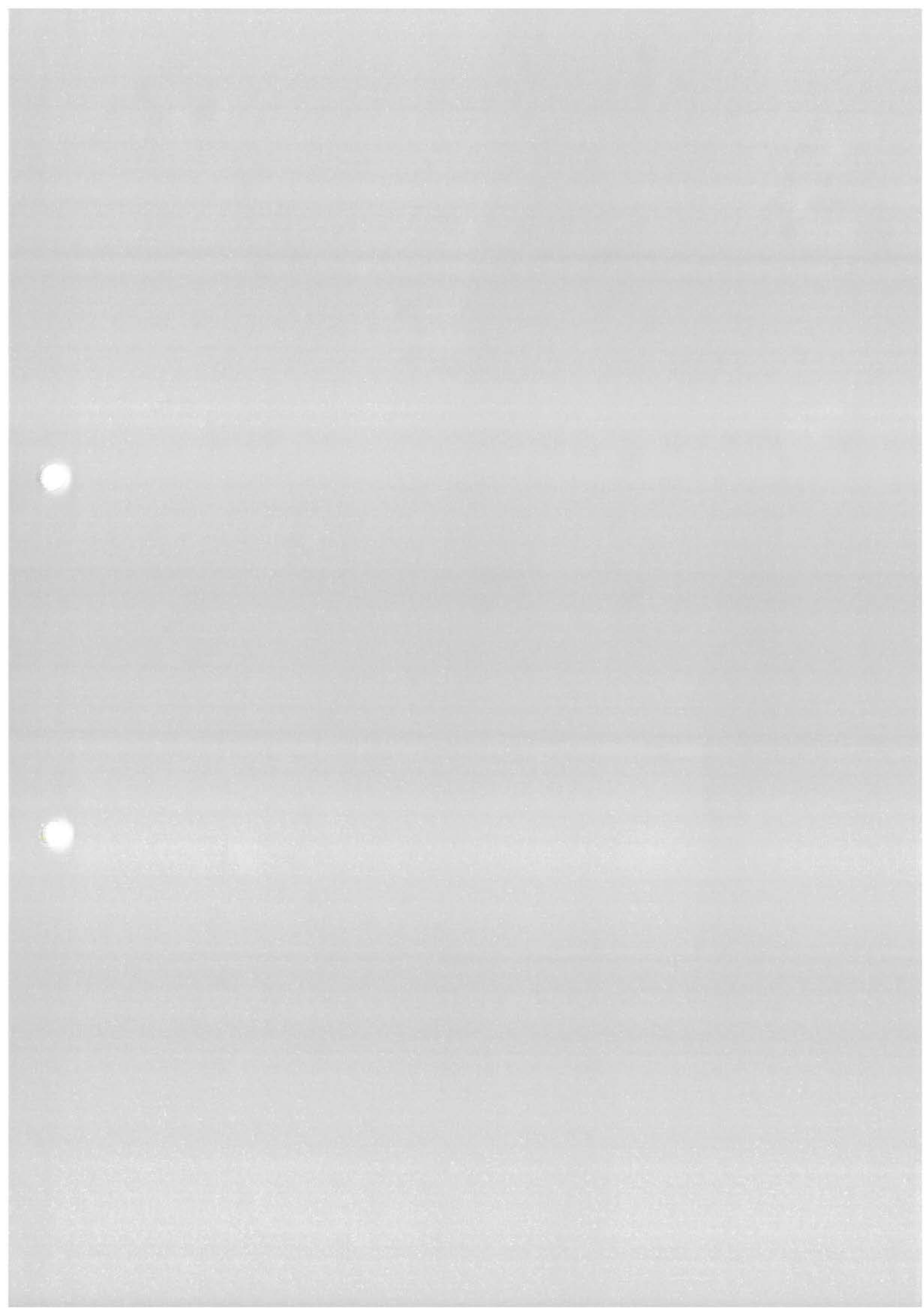
7. 地域全体へのフィードバック 「むら協」の依頼により、同団体が発行する『かしもむら協ニュース』において、多世代WSの内容と参加者の感想や意見をまとめた『名工大特別号!』(A3、両面)を作成し、「むら協」が加子母地区全戸に配布した。

8. まとめ 聞き取り調査から、各団体の共通課題・意識が4点確認できた：①「各団体で実質活動するメンバーはごく少数」、②「人手不足」、③「活動の継承が困難」、④「義務感による継続は望まない。」

さらに、多世代WSを通じて、参加者たちは自身が所属する団体以外に、個々で主体的に活動する団体について詳しく知ることができた。彼女たちは、それぞれが「地域を良くしたい」という共通の目的意識を持って活動していることを理解し、団体同士で協力関係を築き得るという展望を持った。

今後、加子母地区で活動する女性たちが、互いに自団体の情報を地域全体で把握・共有するために多世代WSを継続して開催する、各団体の情報をまとめた団体紹介冊子を配布するなどして、所属団体の活動だけでなく、他団体の動向にも意識を向けることが不可欠である。さらに、各女性活動団体に共通する課題点やニーズに対して、団体同士で協働して、お互いに補い合う関係性を築くことで、活動の幅が今まで以上に広がるだけでなく、より実効性の高い地域活動へつながるとい展望が得られた。

【謝辞】本研究・調査にあたって、ご協力いただきました、加子母むらづくり協議会女性分科会・女性活動団体・地域住民・加子母総合事務所の皆様に感謝の意を表します。
【注記】1.「ファミリサポート制度」



目次

第1章 序論

1.1 研究の背景と目的	2
1.2 既往研究	3
1.3 研究の対象と流れ	5
1.4 本論文の構成	6

第2章 加子母地区における多世代交流の現状

2.1 本章の目的	9
2.2 加子母地区の概要	10
2.2.1 地理と人口	
2.2.2 組織と制度	13
2.3 加子母むらづくり協議会 女性分科会	14
2.3.1 概要	15
2.3.2 今後の展望とニーズ	17

第3章 加子母地区における女性活動団体の現状

3.1 本章の目的	19
3.2 調査概要	20
3.3 女性活動団体のカテゴリー分け	21
3.4 《教育》A. 女性林業団体「恵那こぶしの会」	22
3.4.1 概要	
3.4.2 今後の展望とニーズ	25
3.5 《教育》B. 加子母図書室ボランティア「ひなたぼっこ」	26
3.5.1 概要	
3.5.2 今後の展望とニーズ	29
3.6 《教育》C. 見守り隊	30
3.6.1 概要	
3.6.2 今後の展望とニーズ	32
3.7 《子育て》D. はっぴーたーん	33

3.7.1	概要	
3.7.2	今後の展望とニーズ	36
3.8	《子育て》E. 加子母子育てクラブ「くるりんぱ」	37
3.8.1	概要	
3.8.2	今後の展望とニーズ	41
3.9	《高齢者ケア》F. 高齢者サロン「うさぎ会」	42
3.2.1	概要	
3.2.2	今後の展望とニーズ	45
3.10	《情報》G. かしも通信	46
3.10.1	概要	
3.10.2	今後の展望とニーズ	48
3.11	《防災》H. 日赤女性奉仕団	49
3.11.1	概要	
3.11.2	今後の展望とニーズ	51
3.12	《文化継承（郷土料理）》わらびの会	52
3.12.1	概要	
3.12.2	今後の展望とニーズ	54
3.13	まとめ	55
3.13.1	《教育》	58
3.13.2	《子育て》	59
3.13.3	《高齢者ケア》	60
3.13.4	《情報発信》	61
3.13.5	《防災》	62
3.13.6	《文化伝承（郷土料理）》	63
3.14	小結	64
	第3章註	65

第4章 多世代ワークショップの企画

4.1	本章の目的	67
4.2	ワークショップのねらい	68
4.3	ワークショップの企画	69
4.3.1	日時と会場の選定	71

4.3.2	参加者の募集方法	72
4.3.3	当日のタイムスケジュール	75
4.3.4	ワークショップの内容	77
4.3.5	チームの割り振りについて	78
4.3.6	ワークショップ参加団体の紹介冊子の作成	81
4.4.7	名札の作成	83
4.3.8	アンケートの作成	84

第5章 多世代ワークショップの実施

5.1	本章の目的	87
5.2	参加者について	88
5.3	ワークショップにおけるグループワークの様子	91
5.3.1	白雪姫	92
5.3.2	シンデレラ	94
5.3.3	眠り姫	96
5.3.4	人魚姫	98
5.3.5	髪長姫	100
5.4	総括コメント	102
5.5	小結	103

第6章 参加者へのアンケート調査

6.1	本章の目的	105
6.2	調査概要	106
6.3	調査項目	107
6.4	調査結果	109
6.4.1	年齢	110
6.4.2	職業	111
6.4.3	参加理由	112
6.4.4	参加して気づいたこと	113
6.4.5	次回の参加希望	115
6.4.6	次回の参加希望の理由	116
6.5	小結	117

第7章 地域全体へのフィードバック

7.1 本章の目的	119
7.2 むら協ニュース	120
7.3 小結	124

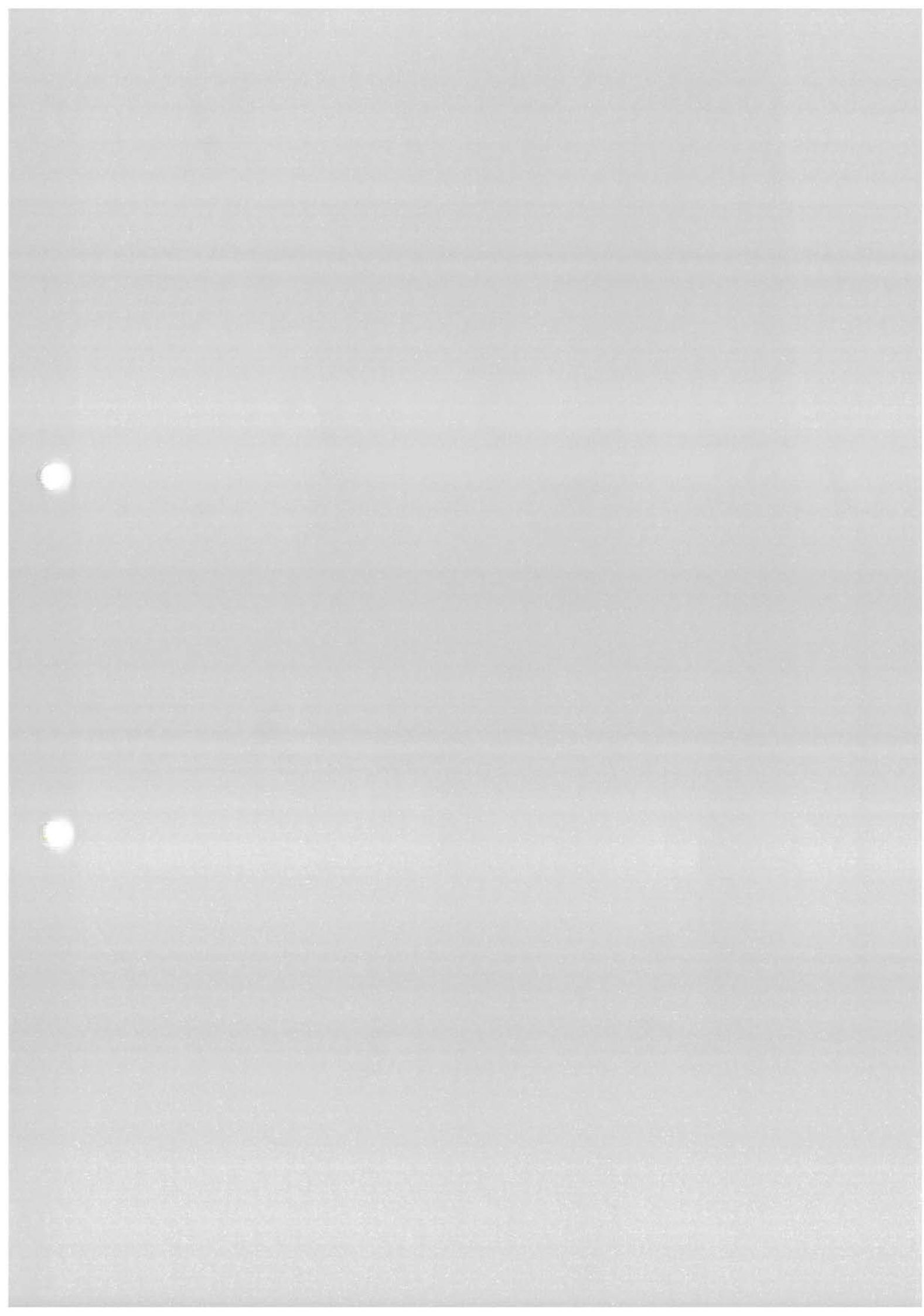
第8章 結論

8.1 まとめ	126
8.2 今後の課題と展望	127

参考文献	129
------	-----

謝辞

資料編



第 1 章 序論

1.1 背景と目的

岐阜県中津川市にある中山間地域加子母には、1889年の村制施行から2005年の中津川市との合併を経て、近年まで女性の交流の場である「婦人会」が設置されていた。しかし、2017年の解散と同時に、加子母地区内における女性の活動団体同士の交流も無くなりつつあった。危機感を持った女性たちは、同地区のむらづくり協議会に、新たに「女性分科会」を設置した。

本研究では、「女性分科会」及び、加子母地区で様々な規模・目的で自律的に活動する女性活動団体同士の交流の在り方を模索するとともに、さらなる地域交流活動の発展促進の一助とすることを目的とする。

1.2 既往研究

CiNii Articles (国立情報学研究所論文情報ナビゲータ <https://ci.nii.ac.jp/>) から、「中山間地域・過疎地域」に関する研究、「女性活動団体」に関する研究について検索し、その概要を検討した。論文を選別したところ、表 1.2-1 に示す 5 件が該当した。

既往研究のうち、過疎地域における女性活動団体に関する研究は、表 1.2-1 の番号 [1,2,3,4] の計 4 件あげられ、神崎智子は「地域社会における女性団体の活動と今後の展望：北九州市の女性団体を中心に」(『アジア女性交流・研究フォーラム』,2016 年) で、北九州市で活動する女性団体を対象に、活動の実態と今後の展望について考察している。

また、片岡亜紀子・石山恒貴は「地域コミュニティにおけるサードプレイスの役割と効果」(『法政大学地域研究センター』, 2017 年) で、サードプレイスが地域の女性にもたらす役割と効果について考察している。

本研究では、中山間地域加子母において、「女性分科会」及び女性活動団体の実態をまとめ、多世代ワークショップを通して今後のあり方を模索するとともに、さらなる地域活動の発展促進の一助となることを目的としており、その遂行意義は大いにあると考えられる。

表 1.2-1 既往研究一覧

番号	タイトル	著者	収録誌	出版者	掲載年
1	地域づくり活動における人的資源特性と継続的参加要因の分析 - 女性の活動者を中心として -	福田恵子, 佐藤豊信, 駄田井久	農業問題研究	富民協会	2008
2	「新しい公共」における女性の活動の可能性 - 女性活動団体メンバーへのインタビュー調査より -	堀久美	女性学研究	大阪府立大学大学院人間社会学研究科	2010
3	「新しい公共」を担う女性の活動の可能性 - 女性活動団体メンバーへのインタビュー調査より -	堀久美	人間社会学研究集録	大阪府立大学大学院人間社会学研究科	2011
4	地域社会における女性団体の活動と今後の展望 - 北九州市の女性団体を中心に -	神崎智子	アジア女性研究	アジア女性交流・研究フォーラム	2016
5	地域コミュニティにおけるサードプレースの役割と効果	片岡亜紀子, 石山恒貴	地域イノベーション	法政大学地域研究センター	2017

1.3 研究の対象と流れ

まず、「女性分科会」及び、加子母地区内で住民から明確に認知されている10以上の女性活動団体に対して、活動の現状や問題点、ニーズを把握するため、聞き取り調査を実施する。

次に、女性同士の情報・意見交換の場として多世代ワークショップを行う。さらに、ワークショップ参加者の交流に対するニーズを把握し、団体同士の協働の可能性を探るためにアンケート調査を実施した。また、多世代ワークショップの内容と参加者の感想や意見をまとめたものを地域全体へフィードバックする。最後に、女性活動団体間の交流の現状や今後の可能性について検討する。

1.4 本論文の構成

本論文の構成を以下に示す。また、次ページに構成図を示す。

- 第1章 本論文の背景と目的について述べる。
- 第2章 岐阜県中津川市加子母と「女性分科会」の概要について述べる。
- 第3章 聞き取り調査によって明らかになった女性の活動団体の現状と問題点について記述する。
- 第4章 多世代ワークショップの企画・準備・当日の流れについて述べる。
- 第5章 多世代ワークショップの様子とワークショップ中に出たアイデアやコメントをまとめる。
- 第6章 参加した女性に実施したアンケート調査の結果について述べ、分析を行う。
- 第7章 多世代ワークショップにまつわる広報活動について述べる。
- 第8章 本研究のまとめと今後の課題と展望について述べる。



図 1.4-1 研究の流れ

第2章 加子母地区における多世代交流の現状

2.1 本章の目的

本章では、加子母地区と女性分科会の現状を明らかとすることを目的とする。

2.2 加子母地区の概要

2.2.1 地理と人口

岐阜県中津川市加子母地区は岐阜県中津川市の最北端に位置しており、美濃、飛騨、信州の三角点にある。北は舞台峠を境にして下呂市、東は御嶽連邦に連なる山々を超えて長野県木曾郡王滝村、南は付知地区、西は加茂郡白川町に山を挟んで接している。加子母川は白川となり、東白川村を経て白川町にて飛田川と合流する。東白川村に接続する地点では、加子母川に並行して国道257号線が加子母地区を縦貫しており、舞台峠と塞の神峠の間には、北から順に、「小郷」「小和知」「二渡」「番田」「中切」「上桑原」「中桑原」「下桑原」「万賀」「角領」の10区に区割りされている。また、南北の5区ごとに、「上半郷」「下半郷」と呼ばれる。

地区内の人口は2,785人(2019年4月1日時点)、世帯数は985世帯(2019年1月1日時点)、面積は114.16km²であり、地区内の94%を山林が占め、東濃ひのきの主産地として有名である。

岐阜県における加子母地区の位置を図2.2.1-1に、加子母地区内の10区を図2.2.1-2に示す。また、加子母地区の人口統計ピラミッドを図2.2.1-3に示す。



図 2.2.1-1 加子母の位置図

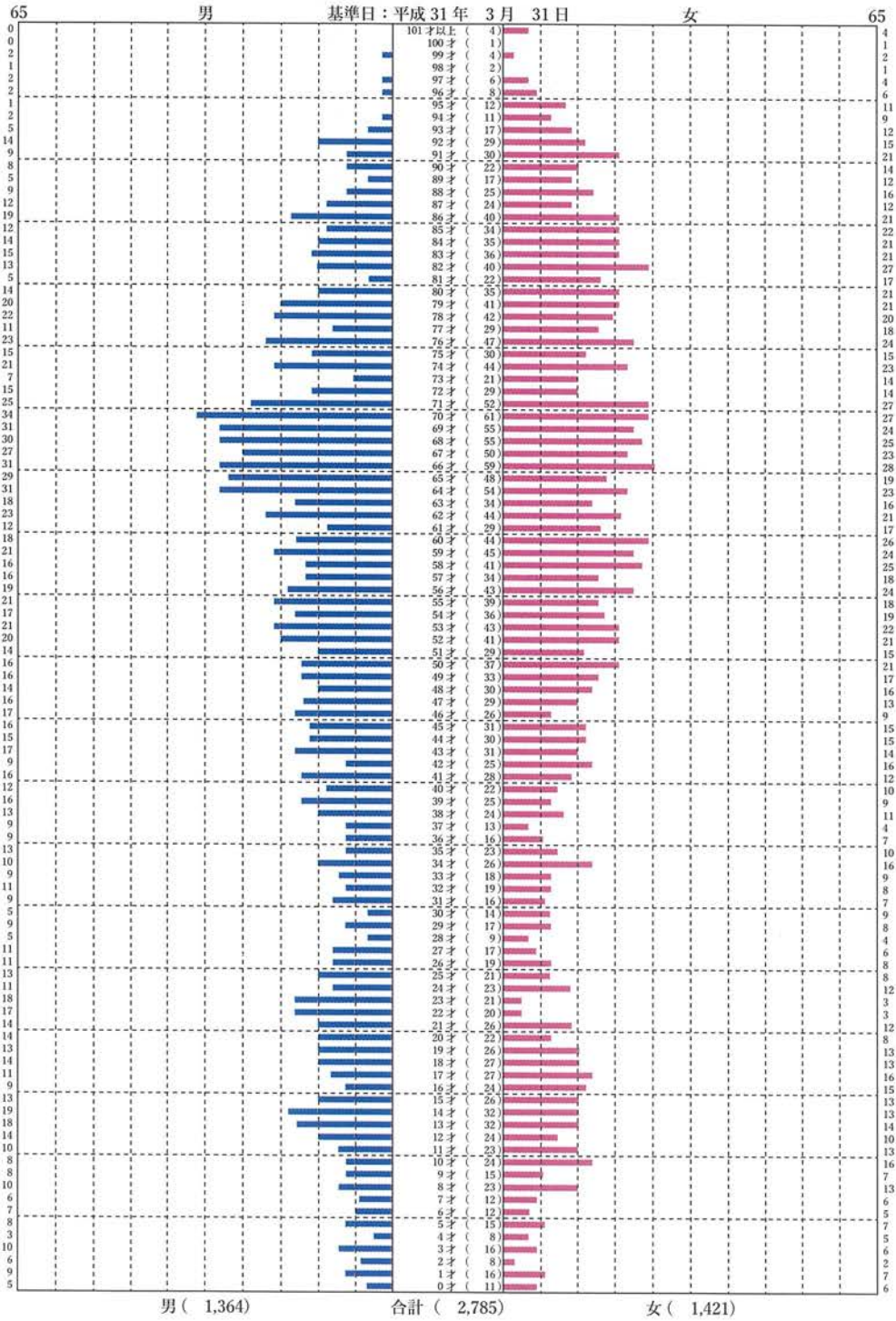


図 2.2.1-2 加子母地区の区割り図

処理日：平成 31 年 4 月 3 日

地区別人口統計ピラミッド

集計区分：加子母



※外国人を含めた集計です。

図 2.2.1-3 加子母地区の人口統計ピラミッド (加子母総合事務所・提供資料)

2.2.2 組織と制度

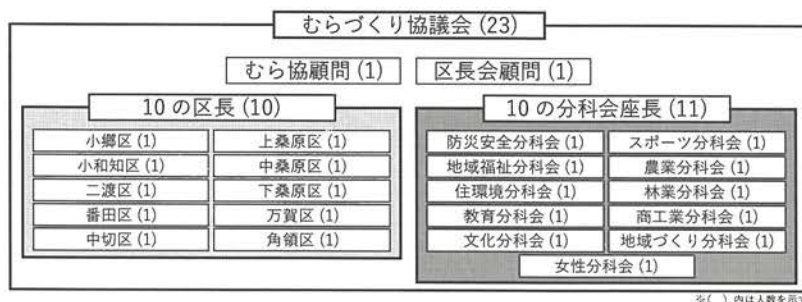
以下に加子母地区の現在の組織と制度についてまとめる。

(1) 区長制度

江戸時代、加子母村は12の集落（小郷・万賀はそれぞれ2組）に分かれ、各組には組頭がいた。明治18年に組頭を組長と呼ぶようになる。明治22年の町村制実施の際に、小郷と万賀をそれぞれ1組にして計10組とし、組長を組総代と改称した。明治30年には組を区と改称し、区長設置規定を設け、組総代を廃して区長を置くこととなった。区長は、区の代表であるばかりでなく、村行政で村長の事務を補助するものと定められ、徴税事務を始め、伝達・調査等、村と住民を結ぶ重要かつ広汎な任務を負うこととなった。

(2) むらづくり協議会

市町村合併により行政区域が拡大することで、住民と行政の距離が広がり、住民の意見が施策に反映されにくくならないよう、合併特例法により「地域審議会」が設置された。その後、2011（平成23）年3月の議会で、「地域審議会設置条例」が廃止され、「地域審議会」から現在の「むらづくり協議会」へと移行された。「地域審議会」の主な目的は「地域住民の意見を市長へ伝える」ことであったが、「むらづくり協議会」の目的は「地域住民による自主的な地域づくり推進」つまり、「地域の自立」をテーマに設置された。この組織は、10の区長と、11の分科会の座長、区長会顧問、むらづくり協議会顧問の計23名から成る。（図2.2.2-1）



※()内は人数を示す

図 2.2.2-1 むらづくり協議会組織図

2.3 加子母むらづくり協議会 女性分科会

「女性分科会」の現状を把握するため、「女性分科会」会長 F 氏に聞き取り調査を実施した。ここでは、聞き取り調査から得られた「女性分科会」の概要と、今後のニーズを記す。

2.3.1 概要

(1) 設立の経緯

加子母には以前「婦人会」が存在した。構成員は10区それぞれの代表10名と女性分科会会長、副会長の計12名で構成されていた。しかし、結婚式や成人式の衣装貸し出し業務の減少や、女性の社会進出による多忙化によって、2017年に解散した。解散と同時に、女性団体の交流も無くなり、危機感を抱いた女性たちによって、2017（平成29）年にむらづくり協議会にて「女性分科会」の前身となる「女性懇談会」を開催し、2019（令和元）年から本格的に「女性分科会」として活動を始めた。

(2) 目的

「女性分科会」では、加子母の女性同士のつながりや、世代間の交流を通し、女性ならではの視点を「むらづくり」に活かすことを目的としている。

(3) 構成員

会長2名、副会長2名と加子母の女性団体に所属する女性たちの計51名から成る。

(4) これまでの活動

「女性懇談会」として、2017（平成29）年から2018（平成30）年までの2年間で計3回、「女性分科会」として2019（令和元）年から計3回活動をしている。「婦人会」解散から「女性分科会」設立にいたる今日までの変遷を表2.3.1-1に、これまでの活動内容を図2.3.1-1に示す。

表 2.3.1-1 女性分科会の変遷

年 月	2017		2018		2019	
	04	04 10	03	07	10	
女性分科会の変遷	婦人会	● 解散 これを機に徐々に女性活動 ⇒ 団体同士の交流が希薄化	女性懇談会 ⇒ 危機感を抱いた女性たちによって 「むらづくり協議会」にて開催	● 第2回 女性懇談会 子育て世代や団体に ついて提案されてい ない事実が明確に	● 第4回 女性分科会 多世代WSの位置づけ を「女性分科会」として これまで3回開催	

加子母「女性分科会」の活動

企画運営：女性分科会長 古田 甲さん

《第1回》 平成29年10月25日（水）19：30～

- テーマ
 - ・加子母地域の女性から見た視点で、加子母に住んでよかったことや、今ある加子母の課題を学生に語ってもらう。
- 講演
 - ・NPO法人まちづくりスポット 長瀬めぐみ氏
- 進行
 - ・大正大学 浦崎太郎 先生（コーディネーター）
- 参加者
 - ・大正大学学生14名
 - ・加子母むらづくり協議会に所属する女性の皆さん
 - ・その他、加子母に住んでいる女性の皆さん



《第2回》 平成30年3月23日（金）19：00～

- テーマ
 - ・加子母地域在住の女性の視点から見た、加子母の現状や課題をお茶やお菓子等をとりながらカフェ形式で語る。
- 講演
 - ・講師 名古屋工業大学教授 藤岡伸子先生
- 進行
 - ・名古屋工業大学 藤岡伸子 先生（コーディネーター）
- 参加者
 - ・加子母地域に在住する女性の皆さん

《第3回》 平成30年11月15日（木）13：30～

- テーマ
 - ・これから私たちに出来ること「元気な加子母むらづくり」のために、自分たちが出来そうなことについてたくさんの意見について自由に意見を出します。
- 場所
 - ・田舎暮らし体験ハウス 松屋
- 体験
 - ・わらびの会による加子母の料理とピザ作り
- 進行
 - ・クラフトカフェ「木と器と」さん他
- 参加者
 - ・加子母地域に在住する女性の皆さん



《第4回》 令和元年7月11日（木）10：00～

- テーマ
 - ・「こんなことが出来たらいいな」、「こんな加子母になったらいいな」などのアイデアや「こんなこと困っているけどどうしてる？」など、気軽に話し合います。
- 場所
 - ・古民家 丹羽邸（小郷・舞台峠）
- 体験
 - ・～Herbs のチカラで夏をさわやかに～アロマ精油の効能を活かしたスキンケアスプレー作り。
- 進行
 - ・中島信子さん（小郷）ほか
- 参加者
 - ・加子母地域に在住する女性の皆さん



※ 8月4日にもこの場所で、東京在住の女性たちと朴葉ずしと和菓子作りを行いました。

図 2.3.1-1 女性分科会・これまでの活動（加子母総合事務所・提供資料）

2.3.2 今後の展望とニーズ

代表 F 氏は、2018 年 3 月に開催した第 2 回女性懇談会で、以下について発言した。：①「加子母地区で活動する女性活動団体の詳細を把握していない」、②「子育て世代にどんな人がいるのか知らない。」これにより、加子母地区は人口 3,000 名弱の小規模なコミュニティで、各団体構成員も少数であるにもかかわらず、女性活動団体同士で活動を知らない現状が明らかとなり、それに対し、会長 F 氏は問題意識を表明した。

(1)子育て世代にどんな人がいるのか知りたい。

2018 年 3 月に開催した第 2 回女性分科会で行ったワールドカフェを通して、比較的狭いコミュニティである山間地域の加子母地区で、他所から嫁いできた人や子育て世代を把握していなかったことに気づいた。

(2)加子母地区にはどんな活動があるのか知りたい。

前述した第 2 回女性分科会の中で、会長 F 氏はさらに、数多くの団体がある中で、お互いがどんな活動をしているか知らないことがわかった。このことをきっかけに、F 氏自身の考えや女性分科会の活動の方向性が「まず、お互いを知るために情報共有をする」となった。

(3)誰に地域活動を引き継いでもらえるのか、知りたい。

会長 F 氏はもともとは保育士で、社会福祉協議会委員も務めており、現在は「女子分科会」会長として地域活動を積極的に取り組んでいる。後述する高齢者サロン「うさぎ会」の運営にも携わっており、今までやってきた地域活動を誰にどのように引き継いでもらえばいいのかわからないと感じている。

(4)障害のある方や男性の居場所や活動の幅を広げたい。

女性の活動だけでなく、障害のある方や男性の居場所も気にかけており、例えば男性のたまり場はコーヒーショップなどの喫茶店に限られており、居場所の選択の不自由さや活動が限定されていることを懸念している。

第3章 加子母地区における女性活動団体の現状

3.1 本章の目的

本章では、加子母の女性団体の実態を把握するため、聞き取り調査を実施した。ここでは各女性活動団体における活動の現状や課題点、ニーズを詳述する。

3.2 調査概要

調査の概要を下記に詳述する。

調査日時：2019年6月28日～9月20日

調査対象：加子母地区で住民から明確に認知されており、且つ有志で活動している9つの女性活動団体

(高齢者サロン「うさぎ会」、女性林業団体「恵那こぶしの会」、加子母図書室ボランティア「ひなたぼっこ」、加子母子育てクラブ「くるりんぱ」、「わらびの会」、「日赤女性奉仕団」、「かしも通信」、「見守り隊」) ※聞き取り順

調査内容：[基本情報]

- (1)「活動メンバー」、(2)「活動のきっかけ」、(3)「活動内容」
- (4)「活動日時・場所」、(5)「対象者・参加者」、(6)「備考」

[今後の展望とニーズ]

3.3 女性活動団体のカテゴリー分け

調査対象の9団体（表 3.3-1 の A-I）を活動の目的別に《教育》《子育て》《高齢者ケア》《情報発信》《防災》《文化継承（郷土料理）》の6つにカテゴリー分けをした。

表 3.3-1 女性活動団体のカテゴリー分け

分類	記号	団体名
教育	A	恵那こぶしの会
	B	ひなたぼっこ
	C	見守り隊
子育て	D	はっぴーたん
	E	くるりんぱ
高齢者ケア	F	うさぎ会
情報発信	G	かしも通信
防災	H	日赤女性奉仕団
文化継承 (郷土料理)	I	わらびの会

3.4 《教育》A. 女性林業団体「恵那こぶしの会」

3.4.1 概要

(1) 活動メンバー

女性林業団体「恵那こぶしの会」（以下、「恵那こぶしの会」とする）では、U氏を会長、K氏を副会長、O氏を会計として、計22名で構成されている。30代後半から70代後半と幅広い年齢層で、40代と50代が特に多い。子育て中や働いている方が多いため、なかなか大人数で集まるのが難しく、実質活動しているのは5-6名程度である。「恵那こぶしの会」の理念に賛同して集まっているが、メンバー全員が林業や農業に携わっているわけではない。主要メンバーである会長U氏、副会長K氏、会計O氏、W氏で、活動内容を決定している。

(2) 活動のきっかけ

「山の思いを伝える」、「山に親しむ」ことを基本理念として挙げており、身近な自然や林業への関心が薄れ、触れることが少なくなった現代において、山の恵みを体感してもらい、豊かな山を次世代へ繋げていくことを目的としている。「恵那こぶしの会」の前身は「こもれびの会」で、「山村文化の伝承を目的とする活動」という岐阜県の行政指導により、恵那市と中津川市合同の女性林業団体である「こもれびの会」が設立された。活動範囲が広域で、恵那と加子母の行き来が手間であることから、恵那の参加者が抜け始めた。さらに市町村合併によって活動継続が困難になり、平成20年4月に現在の「恵

主催：恵那こぶしの会・岐阜県工業大学 産学研実室

森林教室

加子母の自然をおそびつくろう

2019 10/5 (土) 雨天決行

講師 山を歩む達人!! 田口達彦

9:00 集合
9:30 はじまり
15:00 解散

① 集合・解散→ふかしのやかた
② 活動→福嶋の森
③ 活動→やかた 14:00 解散

参加費 300円

申し込み先 恵那こぶしの会

TEL 090-2151-7675 (梅田)

2019 森林教室

申し込み先 (住所) 岐阜県恵那市 (郵便番号)

参加する (住所) 岐阜県恵那市 (郵便番号)

不参加 (住所) 岐阜県恵那市 (郵便番号)

お電話番号 (9日連絡ください)

申し込み先 恵那こぶしの会

TEL 090-2151-7675 (梅田)

定額 9/17 (金) 定額 30円

図 3.4.1-1 「恵那こぶしの会」活動の様子

那こぶしの会」が誕生した。

(3) 活動内容

「恵那こぶしの会」の活動は、主に「森林教室の開催」と「都市との交流」の2つである。「森林教室」では自然との触れ合いをテーマとしており、過去にはホタルの生態について学ぶ自然観察会や身近な植物を用いて万華鏡を作るイベントなどが開催されている。「都市との交流」では、豊田紡織など一般企業との交流を通して、都市部の方にも自然や林業について知ってもらうことを目的としており、朴葉寿司や芋もち、豚汁などの昔ながらの郷土料理を作る。

(4) 活動日時・場所

森林教室は、年2回程度、土日に開催されており、学校林や福崎の森、尾城山で活動している。基本的に活動は午前中で終了する。都市部の方々の交流は、年3回ほど開催している。

(5) 対象

森林教室では、小学生を対象としている。会長U氏は、小さい時の経験が大事で、自然の危険を知らないことが逆に危ないとしている。大人は、森林組合の活動へ参加している。



図 3.4.1-2 「恵那こぶしの会」活動の様子



図 3.4.1-3 「恵那こぶしの会」森林教室



図 3.4.1-4 「恵那こぶしの会」万華鏡作り

(6) 備考

- ・もともと男性の林業団体はあり、男性林業団体と女性林業団体が協働している地区もある。
- ・子どもの習い事の多様化や少子化によって、参加者人数の減少、さらに以前は朝から夕方まで活動していたが、現在は午前中のみとなっている。
- ・現在、岐阜県内には恵那、高山、郡上、飛騨など8つの地域ごとに女性林業団体があり、年に1回開催される「尾城山サミット」を通して、他団体と交流を深めている。

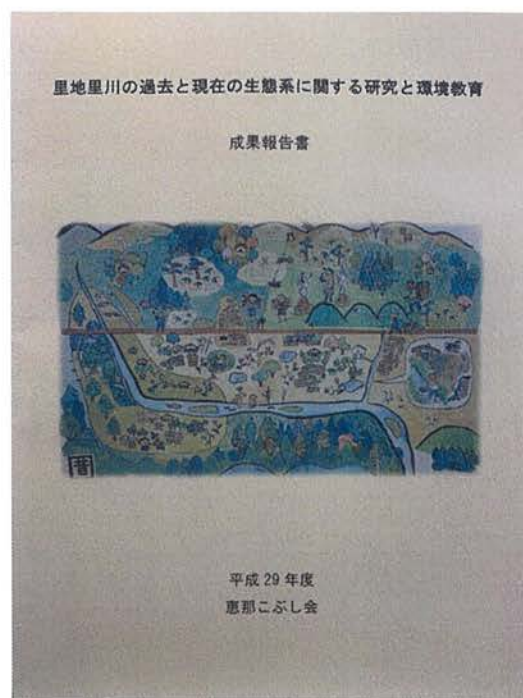


図 3.4.1-5 「恵那こぶしの会」成果報告書

3.4.2 今後の展望とニーズ

今後の展望とニーズとして、「もっと自然を知って欲しい」、「郷土料理の作り方を若い世代へ伝承したい」、「参加者人数を増やしたい」、「活動の継続が困難である」と述べている。自然について、大人でも山に行くことが少ない現代、危ないという認識だけで自然に近づかなくなっているのも、正しく危険を認知することが大切だと考えている。郷土料理に関しては、昔のように集まって作る機会が無くなってしまった今、お手伝い感覚で習うのではなく、きちんと習得して行って欲しいと感じている。彼女たちの主たる活動である「森林教室」の参加者人数について、習い事や少子化に伴って参加人数が減少しつつあるが、付知など募集範囲を広げると管理が難しくなる点などが挙げられた。活動継続に関して、活動メンバー合計 22 名中、実質 5-6 名が活動しているため、今後、活動継続が困難になることが懸念されている。

3.5 《教育》B. 図書ボランティア「ひなたぼっこ」

3.5.1 概要

(1) 活動メンバー

代表U氏、会計I氏、ボランティアで構成されており、ボランティアの方々は入るのも出るのも自由で、人員名簿もないため、正確な人数は把握できなかった。メンバーの年齢層は、30代後半から50代で、小学生から成人した子どもを持つ親世代が中心で、図書ボランティア「ひなたぼっこ」（以下、「ひなたぼっこ」とする）の活動目的に賛同する個人と読書推進活動に関心がある個人が有志で活動している。

(2) 活動のきっかけ

「ひなたぼっこ」の活動趣旨は、「平成17年2月に市町村合併により教育主事の常駐廃止によって管理者が不在になることで、図書室運営が衰退しないよう、誰もが利用しやすい図書室を目指し読書推進活動を行う」としている。もともと、社会教育主事が付知と加子母の図書室を管理していたが、市町村合併に伴って管理業務が廃止になることになり、当時の主事から図書司書の資格を持つ現代表のU氏へ声がかかったことが設立のきっかけである。U氏は当時、小さい子どもを連れて集まれる場所が無く、みんなが愛着を持てるような場所を作りたいと考えていた。また、職場や家以外で自分たちが役に立つ場所（サードプレイス）を作り、主婦層が持っている能力を発揮してもらいたいとも考えていた。具体的には家でしか使えない技を生かし、お金に捉われず職場ではなかなかできない、言えない企画や意見を自由に発信して欲しいと思っていた。

保育園の送迎バス停留所でお母さんに声をかけ、加子母公民館2階にある書庫を図書室として使い始めた。書庫の半分には加子母村史が保管されていたため、一般図書は残りのスペースにしか置けなかった。また書庫は大変狭く、子どもと本を抱えて移動するのは困難で、さらに子どもを連れて階段を登ってベビーカーを廊下に置く手間もあった。請願書の提出とボランティアの図書運搬によって、公民館の2階から1階の空き部屋へ移動したため、階段での移

動は無くなったが、その部屋も狭かったゆえにスペース確保の課題は依然改善されなかった。加子母総合事務所の一部業務が付知へ移動することになり、空いた空間に現在の図書室が誕生した。予算が無かったため、「加子母木匠塾」に仕切りや段差の解消、「PTA」による板の貼り付け、中学生ボランティアに図書運搬、加子母総合事務所や公民館で不要になった物をかき集め、地域住民の協力を経て作り上げた唯一無二の居場所となっている。

(3) 活動内容

「ひなたぼっこ」の活動は多岐にわたり、「図書」、「読み聞かせ」、「広報」の3つで、「図書」活動では図書室の整頓、選書、返却図書の整理、夜カフェ、古本販売、図書館視察がある。選書では、小学校で人気の本や夏休みの課題研究図書などを取り入れている。他に、飲食や会話が禁止されている図書室でコーヒーを片手におしゃべりしながら本に親しむ夜カフェなど、集客のために様々な取り組みがある。

以前はデイサービスにも読み聞かせに行っていたが、現在は毎月第2火曜日に小学校での読み聞かせをしており、加子母子育てクラブ「くるりんぱ」（以下、「くるりんぱ」とする）から依頼があれば読み聞かせと図書貸し出しをしている。広報活動では、「かしも通信」という地域情報誌のおすすめ図書の投稿や、公民館だよりの「図書室だよりの」を年4回発行、年に1回開催される図書まつり、「教育の日」には小学1年生を



図 3.5.1-1 「ひなたぼっこ」図書室の内観



図 3.5.1-2 「ひなたぼっこ」議場の机



図 3.5.1-3 「ひなたぼっこ」活動の表彰①

対象に、加子母弁講座として加子母にまつわる紙芝居や寸劇を行う。

(4) 活動日時・場所

活動は毎週火曜日の午前中で、主に当番制で返却図書を管理しており、ボランティア含めて11名くらいでシフトを組んでいる。読み聞かせは毎月第2火曜日に実施しており、読み聞かせもまた12名ほどで当番制である。

(5) 対象

「ひなたぼっこ」の対象者は加子母在住のすべての住民であるが、小さい子どもを連れた親世代や、バスの乗り継ぎや自家用車の迎えを待つ学生の利用が比較的多く、畑作業に伴って祖父母世代の図書室利用は冬に集中している。

(6) 備考

図書室の一部を展示スペースとして貸し出すこともあり、定期的の下呂市の特別支援学級の生徒の作品が展示されている。

また、「ひなたぼっこ」は平成29年度に「岐阜県地域子ども支援賞」を受賞、さらに平成31年度の「子ども読書の日」記念子どもの読書活動推進フォーラムにおいて「子どもの読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受賞するなど、積極的に活動している。



図 3.5.1-4 「ひなたぼっこ」活動の表彰②



図 3.5.1-5 「ひなたぼっこ」図書まつりチラシ

3.5.2 今後の展望とニーズ

今後の展望とニーズに関して、まず「図書室の利用率を上げたい」として、ぜひ大人の方にも子ども向けの本を読んで欲しいと考えており、公民館利用率は369日と正月以外は常時使われており、それに伴って図書室の利用率も増加して欲しいと、代表U氏は感じている。「老人クラブ」に本の紹介や、選書のリクエストを募集する案などが挙げられた。さらに「人を集めたい」とも言っており、前述した通り、小さい子どもを連れた親世代やバスの乗り継ぎや自家用車の迎えを待つ学生の利用が比較的多く、畑作業に伴って祖父母世代の図書室利用は冬に集中していて、男性の利用者も少ない現状がある。また、「居場所を作りたい」ことから、家庭に閉じこもりがちの子育て世代に積極的に社会へ進出して欲しいという思いがある。

3.6 《教育》C. 見守り隊

3.6.1 概要

(1) 活動メンバー

設立当初は35名で、代表U氏、副代表U氏の計43名で拡大しており、年齢層は60～70代後半と平均60代で比較的高めである。だいたい65歳で定年を迎え、退職されて都合がつくようになる方が多いためであると考えられる。

(2) 活動のきっかけ

加子母小学校には登下校を見守る「みどりのおばさん」がおらず、老人クラブをはじめ他の団体へ相談した結果、2016年2月に更生保護女性会と相談して立ち上げに至り、同年4月から活動を始めた。

(3) 活動内容

毎週水曜日と金曜日の週2回に、小学校低学年の下校時にだけ活動しており、一斉下校時などは活動せず、活動曜日と重なった場合には他の曜日に振り替えている。メンバーは完全シフト制で、代表U氏が二人一組のシフト表を作成し、情報共有する。都合が悪い場合は各自代理を立てるなど、調



図 3.6.1-1 「見守り隊」活動の表彰



図 3.6.1-2 「見守り隊」のユニフォーム



図 3.6.1-3 「見守り隊」横断の様子

整する。実質当番が回ってくるのは2、3ヶ月に1回ほどで、以前は手渡しやfaxなどを通してやりとりをしていたが、現在はSNSのグループラインが中心である。最近では当番以外に、3月に反省会をひらいたり、小学生からお礼の会に招待されるなど、活動の幅が広がりつつある。



図 3.6.1-4 「見守り隊」下校途中の様子

(4) 活動日時・場所

活動メンバーに負荷がかからないよう、毎週水曜日と金曜日の週2回に限定して活動している。二人一組のシフト制を採用しており、実質当番が回ってくるのは2、3ヶ月に1回ほどである。基本的に加子母小学校の隣にある中学校前の横断歩道から、番田の交差点を渡り終えるまで見守っているが、時間がある場合には小学校の駐車場まで迎えに行く。

(5) 対象

小学校低学年が対象である。

(6) 備考

活動ユニフォームは、緑色のジャンパーと黄色の交通旗が「見守り隊」の目印で、2019年10月には警察から表彰を受けた。

3.6.2 今後の展望とニーズ

代表U氏は活動に対して、「恩返し」の気持ちで取り組んでおり、義務の活動ではないとしている。自分たちはやれって言われたから、やっているわけではないが、申請書類やシフトを組む、連絡するなどの事務作業が手間で、今後は事務作業を含めて、誰かに任せたいと考えている。また、自分たちには本職の仕事もあるので、負担にならない程度で、やれる範囲で継続していきたいとしている。活動のやりがいとして、二人一組で活動しているので、違う地区の人や名前を知っていても喋ったことのない人とも交流できて良い、子どもと話す元気やパワーがもらえるとしている。活動時間中は責任を持って取り組んでいるが、子どもたちに走られると追いつけないので困ると感じている。

3.7 《子育て》D. 「はっぴーたーん」

3.7.1 概要

(1) 活動メンバー

代表 K 氏を含め合計 8 名で活動しており、それぞれ未就園児の子どもを持つ母親たちで構成されている。



図 3.7.1-1 「はっぴーたーん」軽トラ市の活動

(2) 活動のきっかけ

「はっぴーたーん」は「①サークル(集まり)を作る」、「②市(行政)に頼るのではなく、子育てブランドとして確立する」、「③加子母の情報・メリットを発信する」の3つの目的を掲げていて、「①サークル(集まり)を作る」ことは、子育てを孤立したものにならないようにする意図がある。「②市(行政)に頼るのではなく、子育てブランドとして確立する」について、加子母は域学連携や木匠塾などの関係人口は



図 3.7.1-2 「はっぴーたーん」活動メンバー(一部)

多く、SNS などを通して加子母を思い出して来訪するきっかけを創出することで、行事参加人数減少や人手不足を解消することにつなげたいとしている。2018年4月から「はっぴーたーん」として活動し始めたが、それまでは代表 K 氏が個人的に軽トラ市¹に出店し、キッズスペースを提供していた。



図 3.7.1-3 「はっぴーたーん」活動場所

(3) 活動内容

主な活動は、「軽トラ市の出店」「内職」「はっぴーれたー」「はっぴーたいむ」の4つである。「軽トラ市の出店」について、内職で作った品物を販売しながら出店者の子どもたちの面倒を見ることを通して、小学生の子どもを持つ親世

代同士との情報共有や地域の高齢者との多世代交流の場になっている。「はっぴーれたー」は月1回発行しており、「はっぴーたいむ」も月1回開催しており、「はっぴーたーん」に所属していない母親たちも参加できる交流会である。「はっぴーたーん」の活動メンバーはLINE@を通して、行事の情報発信をしている。

2018年は積極的に活動していたが、代表U氏自身の出産や引っ越しによって、2019年の活動はほとんど停止状態である。しかし、稼働していなくても「つながり」が感じられることが大切としており、食料品店などで会った時に声かけや挨拶を交わす関係性が構築されていて、子育ての孤独感が一部解消されていることがわかった。

(4) 活動日時・場所

活動場所は加子母公民館の1階にある学童保育室で、具体的な活動日時は決まっていないが、大抵昼間に活動している。

(5) 対象

加子母保育園に入る前の3歳未満の子ども（未就園児）がいる母親が参加対象である。



図 3.7.1-4 「はっぴーたーん」はっぴーレター



図 3.7.1-5 「はっぴーたーん」チラシ

(6) 備考
なし。

3.7.2 今後の展望とニーズ

代表 K 氏は、今後の展望とニーズについて「子育ての時間を有効活用したい」、「いつでも声をかけて良い人が欲しい」、「加子母のことをもっと知ってもらいたい、好きになってもらいたい」としており、「子育ての時間を有効活用したい」に関して、加子母には保育園に上がる前に子どもを預けられる場所が無く、親子が孤立しやすい環境であり、今後も活動を通して、出かけるきっかけの提供をしたいと考えている。さらに、母親が持つスキルや資格を子育て中も活用して、子育ての時間をもっと楽しめるようになりたいと考えていることがわかった。「いつでも声をかけて良い人が欲しい」という意見について、子どもの体調不良や子ども同士の喧嘩で、母親たちだけで活動するのは実質難しい現状で、内職している時に子どもの相手をしてくれる人やイベントの準備を手伝ってくれる人が欲しいと考えている。「加子母のことをもっと知ってもらいたい、好きになってもらいたい」については、加子母は都市部に比べたら無い物もあるが、保育園しか無いため待機児童は無いなど、加子母ならではのメリットや魅力を知ってもらい、保育園に上がる前に加子母を出て行く親子を引き止めたいと思っている。そのために、具体的な情報発信や PR の手段として、ホームページの作成や SNS のハッシュタグ投稿などが挙げられる。

3.8 《子育て》E. 加子母子育てクラブ「くるりんぱ」

3.8.1 概要

(1) 活動メンバー

代表 Y 氏、会計 I 氏、通信 M 氏の全 20 名で構成されており、加子母だけでなく付知在住のメンバーもいる。パートやアルバイト、自営業の方も多く、子連れのスタッフもあり、就職や復職、また引越しなどを経ても籍だけを残している方もいる。

(2) 活動のきっかけ

代表 Y 氏と会計 I 氏はもともと同級生のお子さんを持つママ友で、当時は加子母に図書室や公園に遊具が無く、外で遊べる場所や雨でも過ごせる場所が無かったため、代表 Y 氏と会計 I 氏、保育士ら 4 名で設立した。2012 年から活動を開始しており、合併後に付知の方も在籍することになった。

加子母・付知子育て支援センター
くるりんぱ 通信
発行：加子母子育てクラブ「くるりんぱ」 2019年9月号

年齢別ひろば 生まれ年を参考にあそびにきてくださいね♪

- そらひろば 27日(金)**
2018年4月2日～2017年4月1日に生まれたお子さん対象 (兄弟も参加可)
- うさぎひろば 17日(火)**
2017年4月2日～2018年4月1日に生まれたお子さん対象 (兄弟も参加可)
- ひよこひろば 13日(金)**
2018年4月2日に誕生されたお子さん対象 (兄弟も参加可)

☆身近なものでおもちゃ作り☆
時間：午前10時30分～11時30分頃
場所：加子母コミュニティセンター
身近なものを使っておもちゃを作ります。得意な方は・・・当日のお楽しみです。持ち物は特にありません。

おしゃべりカフェ 林先生と一緒に楽しい時間を過ごしましょうか
9月は・・・午前10時30分より「子育てサロン」の開催♪

日時：9月5日(木) 午前10時～午後2時30分
場所：加子母コミュニティセンター
お話をいただきますので、お弁当を持ってきて食べることができます。(午前11時30分頃からお弁当タイムです)
セルフサービスのカフェコーナーを稼働しています。(大人利用のみ)

「**アコメ**」作りに挑戦しよう♪
を同時開催します。参加希望の方は、加子母地域子育て支援「子育てサロン」のチラシに、当日の持ち物が載っていますのでそちらをご覧ください。チラシは、加子母くるりんぱの部屋にも置いてあります。
★申し込みが必要です★
くるりんぱでも受け付けていますのでスタッフに声を掛けてくださいね。

9月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 かしも &つち 開放日	4	5 かしも 開放日	6 かしも 開放日	7
8	9 かしも 開放日	10 かしも &つち 開放日	11 ALC2階内(体育館)・ 図書	12	13 かしも 開放日	14 かしも 開放日
15	16 敬老の日	17 かしも &つち 開放日	18 かしも 開放日	19	20 かしも &つち 開放日	21
22	23 秋分の日	24 かしも &つち 開放日	25 かしも 開放日	26	27 かしも 開放日	28 そらひろば
29	30 かしも &つち 開放日					

時間：(AM9:30～PM 2:45)
場所：(加子母)あけみコミュニティセンター / (付知)あめりかセンター
※なんでも相談を受けられない方は、図書室をご利用ください。

★開放日のお約束★

- ▶利用毎に利用台帳への記入と、名札付けをお願いします。
- ▶オムツ・ゴミは持ち帰りましょう。
- ▶子どもから目を離さないようにしましょう。
- ▶ものは大切にしましょう。(おもちゃ・絵本・玩具など)
- ▶片付けて帰りましょう。
- ▶おやつはなるべく持ってきてないようにしましょう。お弁当の乾いたデザート程度に。
- ▶飲食は、指定の場所でお楽しみします。
- ▶書庫が貸出されている時や保育士が伝言板などにより、休館・学級開館の場合は支援センターもお休みです。

「☆子育てひろば☆」
今月はお休みです。
◇◇お問合せ◇◇
080-6912-5657
※開放時間内であればスタッフが対応します。

LINE@
友だち登録
こちらから▶

図 3.8.1-1 「くるりんぱ」のチラシ

(3) 活動内容

活動当初は「コミュニティママ支援制度」によって、個人または集団対応で託児が可能で、他にも育児の悩みを共有するママカフェなどイベントを開催していた。メンバーがやりたいことを自由に提案して実施していた。合併後は「ファミリーサポート制度」を利用することになったため、週3回かつ1日5時間以上の開放日を設けることを義務付けられた。さらに託児についても、必ず2人以上で子どもを見ることを国と中津川市から委託された。主に、手遊びや読み聞かせ、季節にまつわるおもちゃ制作をしている。他には、0歳、1歳、2歳児それぞれの年齢別開放日や月1回のカフェ、乳幼児学級のお手伝いや図書ボランティア「ひなたぼっこ」による読み聞かせ、年1回のくるりんぱまつりを開催している。絵本や古着などを扱うリユースバザーは通常の開放日でも開催している。広報活動では、LINE@の実施とくるりんぱ通信を月1回発行しており、中津川市のホームページにpdfを掲載している。

とある年の年間行事計画を下記に示す。「くるりんぱ」では、1年を通して様々な行事を行っている。



図 3.8.1-2 「くるりんぱ」活動の様子



図 3.8.1-3 「くるりんぱ」読み聞かせの様子



図 3.8.1-4 「くるりんぱ」手作り看板

- 4月 子育てひろば「春の音楽メドレー」
- 5月 子育てひろば「ひなたぼっこさんの絵本のひろば」
年齢別ひろば
- 6月 年齢別ひろば
- 7月 子育てひろば「キッズエアロ」
- 8月 年齢別ひろば「プールあそび」
- 9月 子育てひろば「おもちゃ作り」
年齢別ひろば
- 10月 父親対象（家族参加型）
子育てひろば「くるりんぱまつり」
- 11月 子育てひろば「オーナメントを作ろう」
年齢別ひろば
- 12月 子育てひろば「クリスマス会」
- 1月 子育てひろば「子育て相談」
- 2月 子育てひろば「おもちゃ作り」
年齢別ひろば
- 3月 子育てひろば「3歳おわかれ会」
年齢別ひろば

(4) 活動日時・場所

合併前、白寿荘²でデイサービスの利用が無い曜日や時間帯に活動しており、合併後はコミュニティセンターで週3日5時間以上の開放日を設けている。加子母と付知の共同活動のため、加子母で週3日、付知で週1日で開放している。コミュニティセンターではデイサービス団体の利用もあるため、偶発的なデイサービス利用者との交流も発生する。祖父母と同居している乳幼児もいるので、高齢者との交流に対して境目や壁が無い。

(5) 対象

くるりんぱの対象は未就園児とその親で、保育園に入る前に同世代の親子と交流できるため、加子母外から来た子連れの母親たちの居場所ともなっている。

る。

(6) 備考

利用状況について、利用者が0名の日もあり、イベント時には20名ほど集まる。「くるりんぱ」で活動メンバーになるには、月1回、全12回ひらかれる中津川市の「子育てマイスター養成講座」を受ける必要があり、保育士などの資格は無くても構わない、としており、現在、活動メンバーは全員子育て経験者である。

3.8.2 今後の展望とニーズ

今後の展望とニーズについて、「くるりんぱ」ののんびりした雰囲気継続することを第一に考えながら、「スタッフの確保」と「仕事」について言及している。「スタッフの確保」に関して、「本当はイベントごとにアンケートを取って、利用者のニーズを確認したい」、「記録写真を撮りたい」としている。「仕事」について、「加子母の中に将来性がある永続的な仕事がない」、「くるりんぱで稼げるようになったらいいな」としている。また、利用者が0名のときは、寂しさを感じている。合併後、行政の規制によって書類提出など、他の業務を処理しなければならず、大変である、としている。

3.9 《高齢者ケア》F. 高齢者サロン「うさぎ会」

3.9.1 概要

(1) 活動メンバー

N氏を代表として、計9名で構成されている。万賀地区に在住する30代から50代で、民生委員や店舗を経営する方など、様々な年齢層や職業の方が有志で活動している。

(2) 活動のきっかけ

高齢者サロン「うさぎ会」(以下、「うさぎ会」とする)は、U氏とY氏、H氏の提案によって、「老人クラブ³に参加できず、デイサービス施設にも所属できない『中間世代の人たち』の居場所をつくってあげたい」という思いから2017年に発足した。

(3) 活動内容

「うさぎ会」の活動内容を下記に示す。

- | | |
|-------|--|
| 9:00 | 準備・設営 |
| 10:00 | H氏による挨拶
お茶とお菓子をつまみながら、おしゃべりとゲームを楽しむ |
| 11:30 | 童謡「ふるさと」を歌って解散 |

両手のグーパー運動など、頭の体操を行いながら、交流を深める。講師を招いて講座をひらくこともあり、過去には看護師を招いて熱中症対策を呼び

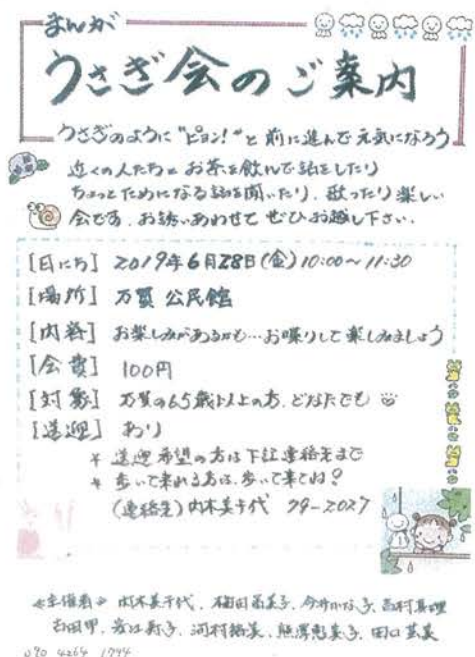


図 3.9.1-1 「うさぎ会」チラシ

かけたり、駐在所に警察官から防犯対策を指導する会もあった。また、付知の高齢者の手品団体による手品会を開催することもあった。内容については、当日の朝、Y氏とH氏で打ち合わせする。「ふるさと」は通常の歌詞のものと、加子母弁の歌詞の物とがある。



図 3.9.1-2 「うさぎ会」活動の様子

(4) 活動日時・場所

2017年8月から活動開始しており、2ヶ月に1回のペースで月末に開催している。活動時間は、午前10時から11時30分までの1時間30分間で、活動場所は高齢者が歩いてこれる「万賀公民館」である。

(5) 対象

参加者は万賀地区在住の高齢者で、平均して約13名である。毎回一緒ではなく、入れ替わり立ち替わりで来る。



図 3.9.1-3 「うさぎ会」ポスターと持ち寄った花

(6) 備考

サロンの始まりは、国の政策である平成9年施行した「ふれあいのまちづくり事業」によるもので、5年間、補助金が支給される。加子母ではメイン事業の一つとして、サロンの定着が実施され、2ヶ月に1回のペースで、



図 3.9.1-4 「うさぎ会」聞き取りの様子

各地区でサロンが立ち上がった。当時、福祉推進委員が主体となって活動していたが、のちに民生委員も加わる。他地区のサロンでは、義理や役として福祉推進委員が運営しているが、万賀地区の「うさぎ会」は自主的に活動している。

3.9.2 今後の展望とニーズ

今後の活動継続については、「次の世代へ負担となって、義務としての活動となるくらいなら、ダメになっても良い」「自分たちも当事者世代になった時、『うさぎ会』のように集まって話せるような場所があったら嬉しい」とのことだった。また、「うさぎ会のモットーは、自分たちも楽しんでやること」、「女は女で楽しくやれば良い」「男の人も要望があれば、何かしらの行動はしていきたい」とも考えていることがわかった。

ニーズについては、「子どもとの交流」を挙げており、「子どもと触れ合う機会があればいいなあ」「せめて万賀地区に住んでいる子ども、赤ちゃんやお嫁さんは知ってほしい」などといった意見が得られた。昔は外で、上の子と下の子が一緒に遊ぶ姿が見られたが、現在、地区全体でも子どもとの関わりは薄くなりつつあり、高齢者の方々も子どもと触れ合うと、表情が変わるし、元気な傾向がある。ただし、「交流するにしても体力的に走ったりするのは危険なので、赤ちゃんを抱っこするくらいなら大丈夫」としており、例えば、「お嫁さんの紹介や交流があったら良い」とのことだった。具体的には、うさぎ会へ子どもを連れて来てくれる形、すなわち散歩がてら「うさぎ会」へ顔を出すなどが良いと考えられる。

3.10 《情報》G. かしも通信

3.10.1 概要

(1) 活動メンバー

「かしも通信」は、代表の H 氏、編集長の H 氏、事務局長と挿絵を担当している H 氏の 3 名を中心に、他に WEB 総長、かしも通信隊長はそれぞれ 1 名、編集者が約 7 名の約 12 名で活動している。活動メンバーのほとんどは、加子母地域外から来た人で、ものづくり関係の職に携わっている。

(2) 活動のきっかけ

2015 年 3 月の市町村合併に伴って、加子母地域の情報を取り扱った「広報かしも」を廃止することになり、地域情報冊子は中津川市が発行する「広報なかつがわ」のみとなった。「広報なかつがわ」には加子母の情報は部分的に載るだけで、「広報かしも」のように特化しているわけではなかった。加子母の情報がわからなくなってしまうこと、さらに「広報なかつがわ」を担当していた N 氏からの声かけもあり、「かしも通信」が誕生した。前述した通り、「かしも通信」の活動メンバーはほとんど加子母地域外から来ているため、「他所者目線から見た、加子母の良いところ」を伝えることを目的としている。

(3) 活動内容

主な活動は、月に 1 回「かしも通信」を発行することで、編集長 H 氏がレイアウトを担当し、事務局長兼挿絵担当の H 氏が描きためておいた表紙や挿絵用のイラストを組み込んでいく。月 1 回開催される「区長会」で配布し、ふれあいのやかたや加子母総合事務所などの加子母の主要箇所でも配布している。活動メンバーには歌舞伎関係者が多いので、歌舞伎シーズンの秋頃は



図 3.10.1-1 「かしも通信」

記事でも歌舞伎について、よく取り上げられる。「かしも通信」で人をピックアップして取材すると、自分たちの本職の仕事につながったり、取材するとワーキングホリデーや域学連携の大学生から逆取材されることもある。また、記事によっては小学校などへアンケートのお願いをすることもある。



図 3.10.1-2 「かしも通信」過去の記事

(4) 活動日時・場所

定まった活動日時や場所はなく、記事のやりとりは主に facebook などの SNS を利用している。区長会で配布するために、区長会当日の午前中に 3 名ほどで 1 時間 30 分かけて加子母公民館図書室で折り込み作業を行う。



図 3.10.1-3 「かしも通信」有名人取材の記事

(5) 対象

加子母地域住民。

(6) 備考

わざわざ加子母総合事務所まで、「かしも通信」を取りに来る人もいる。



図 3.10.1-4 「かしも通信」聞き取りの様子

3.10.2 今後の展望とニーズ

「かしも通信」の今後の展望に対して、事務局長兼挿絵担当のH氏は、「これまで通りゆるく続けていきたいが、いつか若い世代の人でやりたい人がいれば譲りたい」と考えている。ニーズについては、折り込み作業の時にはもう少し人々が欲しいと感じていた。また、区長会には祖父母世代の出席が中心で、祖父母世代と同居している30代くらいの若夫婦は「かしも通信」の存在を知らない人もいる。ただし、自分のことが記事に載っていれば見るきっかけにつながるので、役職を持たない人たちやいろんな世代が携わる活動を取り上げて載せたいと考えている。記事について、今まで加子母の良いところを載せてきたので、批判やそれに伴う展望を今後は載せても良いかなと考えており、実際にこうしたらもっと加子母がよくなるのに、と思うこともあるとわかった。道すがらに「今月号、読んだよ」など声をかけてもらえると嬉しく感じており、やりがいにつながっていると考えられる。

3.11 《防災》H. 日赤女性奉仕団

3.11.1 概要

(1) 活動メンバー

「日赤女性奉仕団」は62名から成り、代表1名と10区から一人ずつ役員として選出される10名、ボランティアで構成されている。年齢層は60代～70代後半が中心となっている。役員の任期は2年間で、活動メンバーになるためには研修を受ける必要がある。

(2) 活動のきっかけ

元は、デイサービスのボランティア活動をしていた団体で、赤い羽根募金活動や寝たきり介護の独居老人の方へ激励するなどをしていたが、近年は福祉サービスの充実のために、以前ほど活動は活発ではなくなっている。

(3) 活動内容

「日赤女性奉仕団」の主な活動は、炊き出し訓練と高齢者慰問、さらに災害や家事の時に行政側から要請があれば出動することである。炊き出し訓練は3年前から始めており、炊き出し用度品の保管場所の確認や点検を兼ねて実施している。9月の軽トラ市で実際



図 3.11.1-1 「日赤女性奉仕団」軽トラ市



図 3.11.1-2 「日赤女性奉仕団」活動の様子



図 3.11.1-3 「日赤女性奉仕団」炊き出し訓練



図 3.11.1-4 「日赤女性奉仕団」地震体験車

に調理した白米や非常食などを振る舞い、昨年からは消防団に依頼して起震車を恵那市から用意し、「日赤女性奉仕団」の活動を知ってもらうきっかけでもあり、災害を再認識する場にもなっている。高齢者慰問は春と秋の年に2回実施しており、独居老人世帯や寝たきりの方の家へ訪問し、異変を感じたら「社会福祉協議会」へ相談する手はずとなっており、区によって異なるが、対象は6世帯ほどある。また常時、不要になったシーツなど災害時にも役立つ用品を募っている。

(4) 活動日時・場所

決められた活動日時や場所は特に無い。

(5) 対象

対象者は加子母在住の全員である。

(6) 備考

独居老人世帯への訪問では、ティッシュなどの日用品を配布するついでに様子を見るなどする。付知にある「日赤女性奉仕団」の活動は、加子母より活発で、イベントを開催して創作したものを売って活動資金を増やすなどしている。

3.11.2 今後の展望とニーズ

以前のボランティア活動団体から「日赤女性奉仕団」へ変わった際に、活動メンバーがたくさん辞めてしまったため、災害時などいざの時に人数が足りるのか不安を語っていた。また、代表など活動の中心を下の世代へと回していきたいが、下の世代がいがないためにできない実情があることがわかった。

3.12 《文化伝承（郷土料理）》I. わらびの会

3.12.1 概要

(1) 活動メンバー

会長K氏、会計T氏のほか、5名の合計7名で構成されており、1年ごとに会長、会計の役職を順番に回している。活動メンバーは本職を退職された方など、65～67歳と同年代で構成されている。



図 3.12.1-1 「わらびの会」活動の様子



図 3.12.1-2 「わらびの会」活動の様子

(2) 活動のきっかけ

作ってみる楽しみを共有することを目的としている。料理を通して色々な人と知り合えるのは嬉しく、楽しみの一つとしている。2019年で活動開始から3年目で、設立当初は「ひめの会」としてU氏が設立し、2年目からは「地区社会福祉協議会」に参加して高齢者サロンとして補助金などの手当を受けることとなった。



図 3.12.1-4 「はっぴーたーん」看板



図 3.12.1-4 「はっぴーたーん」看板

(3) 活動内容

加子母の郷土料理を中心に、メンバー同士でおしゃべりしながら作り、今まで作ったものには、漬物、朴葉寿司、朴葉餅、五平餅、鶏ちゃん、紫蘇巻き、味噌作り、手作り茼蒿、草餅（あねかえし）、米粉を使ったシフォンケーキ、手揉み茶、餃子などが挙げられる。他団体との交流で、農協と協働して味噌作りや健康促進委員主催のウォーキング

イベントに参加することもある。活動メンバーの畑にあるものを取って来て作ることも多く、畑のやりがいにつながっている。作るものや活動内容は、年初めに決める。

(4) 活動日時・場所

7名で日程を調整して月に1回、加子母コミュニティセンターの調理室で活動している。

(5) 対象

活動の対象者や利用者などは無い。

(6) 備考

「わらびの会」のスタンスとして、ボランティアとして声がかかれば、外部の活動に参加したいと考えているため、自発的な交流は少ない。

3.12.2 今後の展望とニーズ

「わらびの会」は今後、これ以上活動メンバーを増やすつもりは無いとしており、日付が合わない、自分たちのペースでゆっくりやっていきたい、ことを理由に挙げている。ニーズについては、「結婚式や葬式など行事にまつわる料理の作り方など、若い人に伝えたいことはあるが、若いお母さんたちと交流する機会はない」、「楽しんで活動が続けたい」としている。また、交流を通して加子母の知らない人と知り合える楽しさをこれからも続けていきたいと考えている。

3.13 まとめ

聞き取り調査を行った9つの女性活動団体の活動内容を表3.13-1、各団体の関係性を図3.13-1に示す。ここでは各団体のニーズと課題を詳述する。

表 3.13-1 女性活動団体の活動内容

分類	記号	a. 団体名	b. 活動の目的 きっかけ	c. 活動内容	d. 対象者 利用者	e. 構成人数	f. 活動 日時・場所	g. 今後の展望とニーズ
教育	A	恵那こぶしの会	山の恵みを体感する 豊かな山を次世代へ 繋げる	・森林教室 ・都市部との交流	小学生	22名 (会長/副会長/会 計/各1名)	・森林教室(年2回土日) ・都市部との交流 (年3回)	・もっと自然を知って欲しい ・参加人数を増やして活動を継続したい
	B	ひなたぼっこ	誰もが利用しやすい 図書室を目指す	・図書 ・広報活動	加子母地域住 民	- (正確な人数は把握 できず)	・毎週火曜日午前 ・加子母総合事務 所図書室	・図書室の利用率を上げたい ・活動に参加してくれるボランティアを集 めるのが大変 ・事務作業が手間 ・誰かに任せたいが、義務として継続して 欲しくない
	C	見守り隊	お世話になった小学 校に恩返しをしたい (加子母にみどりのおはさん不在)	・小学校低学年児童の下校時、 見守り (二人一組で2-3ヶ月に1回のシフト制)	加子母小学校 の低学年	8名(加子母2 名/他所からのお 婆さん6名)	・週2日(学期中の水・金) ・小学校から交差 点まで	・子育ての時間を有効活用したい (子育てを阻害してほしくない) ・加子母のことをもっと知ってもらいたい ・くるりんば独自の、のんびりとした雰 囲気を継続したい ・スタッフの確保
子育て	D	はっぴーたん	サークルを作る 加子母の情報やメ リットを発信する	・軽トラ市 ¹ への出店 ・内職 ・広報活動	未就園児を持 つ母親	8名(加子母2 名/他所からのお 婆さん6名)	・加子母公民館 学童保育室(貸)	・自分たちも楽しんでやりたい ・次の世代への負担や義務にしたくない ・子どもと触れ合う機会が欲しい
	E	くるりんば	未就園児の居場所を つくる(外で遊べる場所、 雨でも過ごせる場所が欲しい)	・主に手遊びや読み聞かせ ・季節ごとにおもちゃや制作 ・付知地区と協働	未就園児	20名 (代表/会計/通信 /各1名)	・週3日 ・加子母コミュニ ティセンター	・これまで通り、ゆるく続けたい ・折り込み作業が大変 ・若い世代でやりたい人がいれば譲りたい
高齢者 ケア	F	うさぎ会	「中間世代」の人た ちの居場所をつくる	・同世代との会話 ・頭の体操 ・健康や防犯対策の情報共有	万賀地区在住 の高齢者	9名	・2ヶ月に1回 ・午前中 ・万賀公民館	・活動の中心を下世代へ回したい ・今後、活動人数が確保できるのか心配
情報 発信	G	かしも通信	加子母に特化した情 報誌を作る(合併を機に 加子母の情報誌が無くなった為)	・『かしも通信』発行(月1回) ・折り込み作業	加子母地域住 民	約12名(代表 /編集長/事務局 長/各1名)	-	・活動の中心を下世代へ回したい ・今後、活動人数が確保できるのか心配
防災	H	日赤女性奉仕団	昔からある 元はデイサービス ボランティア活動	・行政から要請があれば出動 ・炊き出し訓練 ・高齢者慰問	加子母地域住 民	62名(各区役員 1名選出/(代表1 名/役員10名)	-	・これ以上メンバーは増やせない ・行事にまつわる伝承料理の作り方などを 若い人たちに伝えたい
文化 伝承 (郷土料理)	I	わらびの会	作る楽しみを共有 料理を通して色々な 人と知り合う	・加子母の郷土料理を中心に、 メンバーと話しながら作る	-	7名 (会長/会計/各1 名)	・月1回 ・加子母コミュニ ティセンター	・これ以上メンバーは増やせない ・行事にまつわる伝承料理の作り方などを 若い人たちに伝えたい

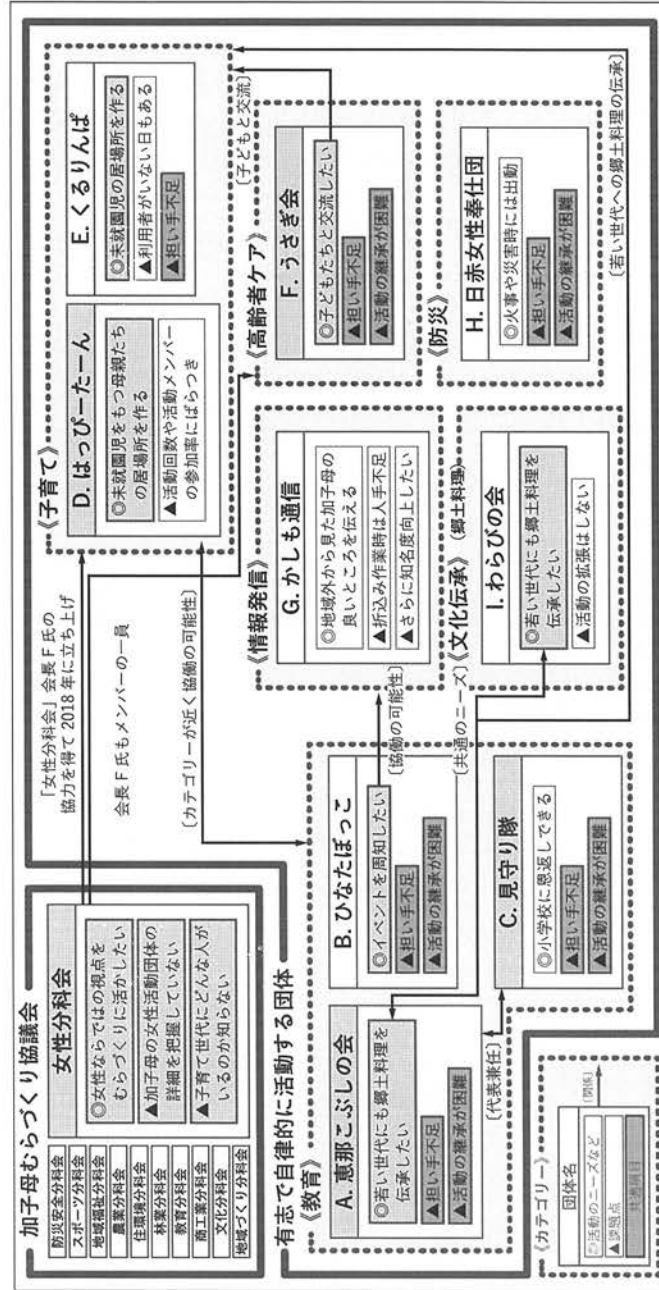


図 3.13-1 女性活動団体の関係図

3.13.1 《教育》

A. 女性林業団体「恵那こぶしの会」

ニーズとして、将来的に、子どもたちに山遊びや川遊びの危険を正しく認知させたい、若い世代にも郷土料理を伝承していきたいと考えている。しかし、現状・課題として、登録メンバーは22名だが、実質活動しているのは5、6名にとどまり、活動継続が困難になることが懸念されている。さらに、少子化や習い事の多様化に伴って、彼女たちの主たる活動である森林教室に参加する児童数も伸び悩んでいる。

B. 加子母図書室ボランティア「ひなたぼっこ」

今後、女性たちが持っている能力やスキルを發揮しながら、地域住民が愛着を持てる居場所（サードプレイス）を作りたいとしている。また、同団体主催のイベントをさらに広く周知していきたいとしており、後述する《情報発信》団体Gの協力を得ることも解決策の一つとして考えられる。課題点として、男性たちや高齢者の図書室利用率が低いこと、《教育》団体Aと同様に、マンパワー不足を挙げている。

C. 見守り隊

活動の継承について、代表U氏は義務感による継続は望んでおらず、さらに「見守り隊」と《教育》団体Bの代表はU氏が兼任している現況から、活動の引き継ぎが困難であることが窺える。

3.13.2 《子育て》

D. はっぴーたーん

二人の未就園児を抱える代表のK氏は、同じく未就園児を持つ母親の居場所を作るため、「女性分科会」会長のF氏の協力を経て、2018年に立ち上げた。子どもの体調不良などによって、活動回数やメンバーの集まりは不規則な現状にあるが、今後も継続したいと考えている。

E. 加子母子育てクラブ「くるりんぱ」

《子育て》団体Dに対して、当団体は未就園児の居場所づくりを目的としている。設立当時、遊具や雨でも過ごせる場所が無かったため、発足に至った。課題点として、利用者がいない日もあること、スタッフの確保が難しいことが挙げられた。しかし、制度²の都合上、活動日数は減らせないとしている。

3.13.3 《高齢者ケア》

F. 高齢者サロン「うさぎ会」

この団体の立ち上げには「女性分科会」会長のF氏も関わっており、活動メンバーにも含まれている。今後のニーズとして、子どもとの交流を挙げており、《子育て》団体D・Fとのコラボレーションも効果的であると考えられる。課題点は《教育》団体A・Cと同様で、活動の継続は困難だが、義務による継承は望んでいない。

3.13.4 《情報発信》

G. かしも通信

他の団体とは異なり、活動メンバーのほとんどは加子母地区へのIターン者・Uターン者で、地域の外から見た加子母の良いところを伝えることに重点を置いている。課題点として、知名度向上と折り込み作業の人手不足を挙げている。

3.13.5 《防災》

H. 日赤女性奉仕団

活動メンバーは、加子母の全10区から一人ずつ選出された任期2年の役員10名と有志で構成されている。また、活動内容の一つに、火事や災害時に行政から要請があれば出動が義務付けられているなど、活動は一部制限されている。

3.13.6 《文化伝承（郷土料理）》

I. わらびの会

構成員は 60 歳後半 7 名の同世代で、将来的にメンバーを増やすことはないとしており、理由として、人数の増加によって活動日の決定が困難になることを挙げている。しかし、活動の拡張はしないとしながらも、《教育》団体 A と同様に伝統料理を若い世代へ伝えたいとしている。当団体と《教育》団体 A、《子育て》団体 D・E で、郷土料理の伝承について協働の可能性が見える。

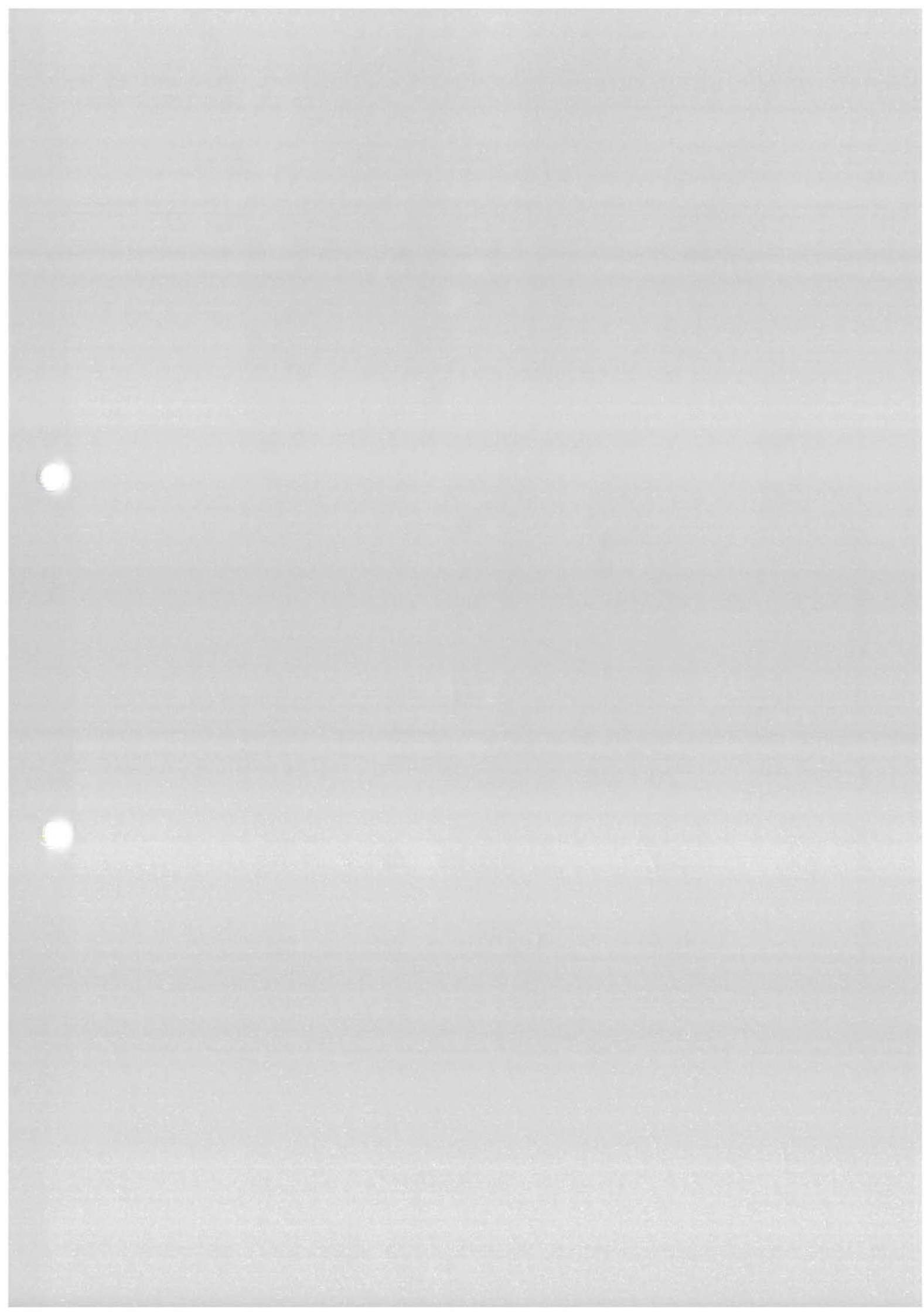
3.14 小結

調査から、各団体の共通点が確認できた。まず、今後の活動方針として、「今まで通り団体内の雰囲気維持しつつ、負担無く続けていきたい」と考えていること、課題点として「担い手不足」や「活動の後継者不足」などが挙げられた。

今後の展望として、女性活動団体それぞれの立ち位置を明確化し、カテゴリー分けをすることで、各団体が掲げる目的や共通の課題点に対して、お互いに補完的な関係を築いて活動できる可能性がある。

第3章 註

1. 「加子母むらづくり協議会」と「NPO かしもむら」の主催によって、毎年6月から11月までの間、第3日曜日に道の駅加子母の第2駐車場で開催される。野菜やハンドメイド作品の販売や、アマチュアバンドによる演奏会や餅投げなど様々なイベントが開かれる。加子母の住民から観光客まで様々な人が集まり、申請すれば誰でも出店できる。
2. 加子母地区のデイサービス施設の名称。
3. 地区単位で設置されており、比較的健康な高齢者が集まる団体である。万賀地区では60歳以上は所属しなければならず、お寺やお墓の清掃活動やゲートボールを嗜むなど、奉仕活動や運動を行う。



第4章 多世代ワークショップの企画

4.1 本章の目的

本章では、「女性分科会」会長 F 氏と第 3 章の各団体の聞き取り調査を経て、「多世代ワークショップ」の企画、実施にいたるまでの過程を詳述する。

4.2 ワークショップのねらい

前述した通り、「女性分科会」会長 F 氏と各団体の聞き取り調査から、人口も 3,000 名弱と比較的コミュニティが狭い加子母地域内でもお互いの活動を知らず、団体同士のつながりも希薄であることがわかった。

本ワークショップでは、下記のテーマを設定した上で、女性同士の意見交換や交流をすることが目的である。

- ① 「それぞれの団体が他団体の活動を知る」
- ② 「今後、自分たちができることを考える」

4.3 ワークショップの企画

本ワークショップでは、主催を「名古屋工業大学大学院 藤岡研究室」とし、後援を「加子母むらづくり協議会 女性分科会」として、本ワークショップを「第4回女性分科会」と位置付けた。



\\ みんなで話そう！ //

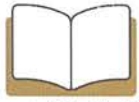
多世代ワークショップ

- 日付：2019年10月30日（水）
- 時間：19時30分から21時
（受付開始：19時から | 全行程1時間30分）
- 場所：ふれあいのやかた 2階

- 参加者：子育て世代の方から高齢の方
下記団体に所属する方（順不同・敬称略）



うさぎ会



ひなたぼっこ

ほっぴーたん

ほっぴーたん



わらびの会



かしも通信



恵那こぶしの会

くるりんぱ

くるりんぱ



見守り隊



日赤女性奉仕団

などなど...

- 内容：加子母の地域資源を発見・共有しましょう♪
立場や役職の垣根を超えて、気軽におしゃべりしながら
「これから、わたしたちができること」を一緒に考えていきましょう！



○主催：名古屋工業大学大学院 藤岡研究室
 ○後援：加子母むらづくり協議会 女性分科会
 ○連絡先：名古屋工業大学大学院 藤岡研究室 修士2年 山崎有香（やまざきありか）
 [TEL] 090-9488-6341 [MAIL] artartmusi9@gmail.com

図 4.3-1 多世代ワークショップの詳細

4.3.1 日時と会場の選定

実施にあたって、「女性分科会」会長F氏と複数回協議を重ねた上で、日時と会場を選定した。子育て世代から高齢者まで幅広い年齢層に参加してほしいこと、聞き取り調査を行った団体に所属しない人にも来てほしいことから、平日の夜に実施することにした。会場については、古民家を検討していたが、車移動が主である加子母地域で駐車場の確保ができ、子連れの参加者が子どもを遊ばせられる部屋を用意できることを考慮し、加子母研修交流施設「ふれあいのやかた」を選定した。

4.3.2 参加者の募集方法

前述の通り、本ワークショップを第4回女性分科会と位置付けたため、「女性分科会」名簿に記載されている人物と、聞き取り調査を行った団体の代表者に第4回女性分科会開催の通知（女性分科会フォーマットによる、A4片面）を郵送にて配布し、電話やFAXで出欠をとった。さらに聞き取り調査を実施した団体それぞれに、第4回女性分科会開催の通知をA3に拡大したものを配布し、協力を経て、各団体の活動場所に掲示した。

平令和元年10月8日

女性防火クラブ
前田 佐代子 様加子母むらづくり協議会
女性分科会 会長 古田 甲

女性分科会(第4回)の開催のお知らせ

日ごろは、むらづくり協議会活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
加子母むらづくり協議会女性分科会(第4回)のご案内です。

今回は、加子母で活動している名古屋工業大学 藤岡研究室の山崎有香さんの企画で、加子母にある女性団体同士の交流を図るワークショップを開催いたします。

○日 時 10月30日(水)19時30分~21時00分

○場 所 ふれあいのやかたかしも 2階

○内 容 「こんな女性団体、加子母にあったんだ」、「あんな面白い事やってみえる団体いるんだ」など、加子母にある様々な女性団体の紹介をします。

また、今後こんな地域づくりが団体同士でできるかも・・・という事など、お茶やお菓子をつまみながら気軽にお話したいと思っています。

お忙しい中申し訳ありませんが、たくさんの方にご参加をお願いしたいと思いますので、ぜひ、貴団体の中でお仲間に声をかけて頂きますようご協力お願いいたします。

※準備の都合上、10月25日(金)までに出席の連絡をお願いします。(電話でもFAXでもOKです) また、団体の中で一緒に参加して下さる方がみえる場合、その方のお名前も併せてご報告をお願いします。

加子母むらづくり協議会では、平成29年度に女性懇談会を開催し、その後、平成31年度から、当協議会の中で「女性分科会」として活動を始めました。

女性分科会は、加子母の女性同士のつながりや、世代間の交流を通し、女性ならではの視点を「むらづくり」に活かすことを目的としています。

※このご案内は、女性団体の代表の方と、これまでご参加(ご協力)いただいた方、ご案内させていただいている方に送付させていただいております。

お問い合わせ・連絡先
加子母総合事務所 担当: 瀬藤・田口
TEL: 0573-79-2111
FAX: 0573-79-2700

図 4.3.2-1 第4回女性分科会・開催の通知(表)(加子母総合事務所・提供資料)

※準備の都合上、10月25日(金)までにご連絡をお願いします。

(ご連絡は、電話でも FAX でもどちらでも OK です)

令和元年 月 日

加子母総合事務所 瀬瀬・田口 宛

(FAX:0573-79-2700)

令和元年10月30日(水)の女性分科会に

出席・欠席 します。

報告者氏名: 前田 佐代子

《参加者氏名》

4.3.3 当日のタイムスケジュール

ワークショップのタイムスケジュールを図 4.3.3-1 に示す。また、詳細について、下記に述べる。

19:00 受付開始

19:30 始まりの挨拶 (5分)

19:35 参加団体代表者 プレゼンテーション (30分)

参加団体:「うさぎ会」「ひなたぼっこ」「はっぴーたん」
「わらびの会」「かしも通信」「恵那こぶしの会」「くるりんぱ」
「見守り隊」「日赤女性奉仕団」(順不同、計9団体)
(各団体3分程度)

20:05 交流 (30分)

テーマ①:いま加子母でできること (15分)

- ・来年の春にやるなら、どんなこと?
- ・一番、実現できそうなことはなんだろう?

テーマ②:わたし、わたしたちができること (15分)

- ・それぞれ自分たちで、できることはなんだろう?

20:35 成果発表 (20分)

- ・どんな人と、どんなことをお話ししましたか?
- ・発見したことや感じたこと、気づいたことをみんなで共有しましょう!

20:55 終わりの挨拶 (5分)

21:00 解散

■タイムスケジュール（全行程：1時間30分）

- 19:00 受付開始
- 19:30 始まりのご挨拶
- 19:35 参加団体代表者 プレゼンテーション
 <スライドと配布資料は一緒にします>
 <自己紹介を含め、活動内容や活動への想いを
 3分ほどお話ししていただきたいです>
- 20:05 交流開始
 【①いま加子母で、できること】（15分）
 ・来年の春にやるなら、どんなこと？
 ・一番、実現できそうなことは何だろう？
 【②わたし（わたしたち）ができること】（15分）
 ・それぞれ自分たちで、できることは何だろう？
 <お茶やお菓子をつまみながら楽しんでやりましょう!>
- 20:35 成果発表
 ・どんな人と、どんなことをお話ししましたか？
 ・発見したことや感じたこと、気づいたことを
 みんなで共有しましょう!
- 20:55 終わりのご挨拶
 <最後にアンケートのご記入をお願いします>
- 21:00 解散

図 4.3.3-1 多世代ワークショップのタイムスケジュール

4.3.4 ワークショップの内容

加子母にある女性団体同士の交流を図るため、下記の順序でワークショップを進めていく。ここでは、それぞれの過程の目的や内容について詳述する。

[参加団体代表者プレゼンテーション]

まず最初に、後述する本ワークショップの参加団体紹介冊子とスライドを踏まえながら、団体に所属するメンバーに自己紹介を含め、活動内容や活動への想いを述べる。

[交流]

1 チーム 5-6 名に別れて、各チームごとにテーマ①②に沿って交流を深める。団体の活動内容やニーズを踏まえて、今後の加子母の地域づくりについてお茶やお菓子をつまみながら気軽に話し合う。会話の中で出てきたキーワードは、模造紙にその都度記入する。

テーマ①：いま加子母で、できること

来年の春にやるならどんなことができるか、一番実現できそうなことは何か、案を出し合う。

テーマ②：わたし、わたしたちができること

①に対して、それぞれ自分たちで実現するためにできることは何か考え、意見を交換する。

[成果発表]

[交流] で話し合った内容を、模造紙を掲げながらチームごとに発表する。また、どんな人とどんなことを話したのか、会話の中で発見したことや感じたこと、気づいたことを参加者間で共有する。

4.3.5 チームの割り振りについて

参加者 21 名を一つのチームが 4-5 名になるよう、それぞれ「白雪姫」「シンデレラ」「眠り姫」「人魚姫」「髪長姫」の 5 つのチームに分けた。チーム名はワークショップ参加者の話題作りや、楽しい雰囲気を創出するためにつけた。

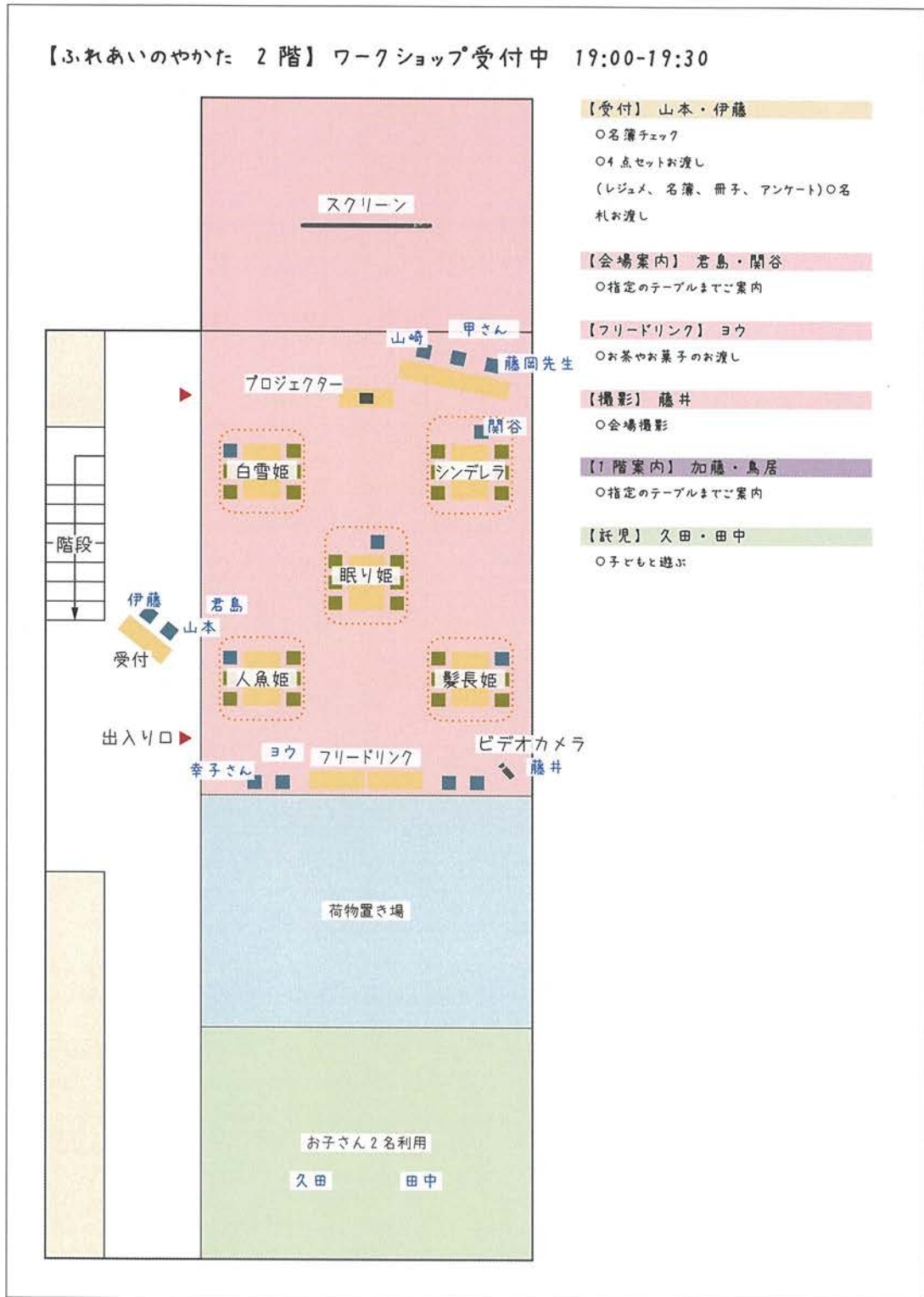


図 4.3.5-2 多世代ワークショップ配置図 2/2

4.3.6 ワークショップ参加団体の紹介冊子の作成

多世代ワークショップのテーマ①「それぞれの団体が他団体の活動を知る」を効果的にするため、聞き取り調査から各団体の活動内容や今後やりたいこと、困っていること、さらに活動の様子と代表者の連絡先を記載した A5、20 ページの冊子を作成した。サイズについて、主婦層は普段の生活の中で A4 サイズが入るバッグを持ち歩くことが少ないと感じたため、女性用の手提げでも持ち運びやすい A5（見開き A4）を採用した。さらに、冊子作成にあたって団体それぞれのロゴマークを制作した。下記に、冊子に記載されている内容を示す。

[基本情報]

- (1)活動メンバー
- (2)活動のきっかけ
- (3)活動内容
- (4)活動日時 & 場所
- (5)対象

[やりたいこと、お困りごと]

[活動の様子] (写真)

[代表者連絡先]



図 4.3.6-1 多世代ワークショップに使用した参加団体紹介冊子 (表紙)

4.3.7 名札

所属団体と名前を記載した名札を首からぶら下げられるホルダーに入れて、参加者にワークショップ中は身につけるように協力いただいた。

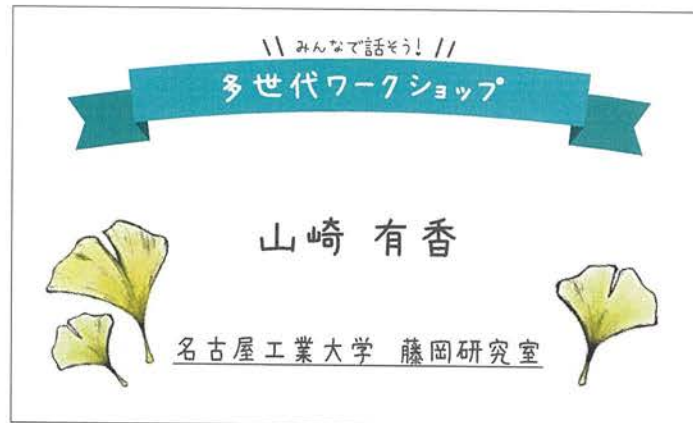


図 4.3.7-1 多世代ワークショップ 参加者の名札

4.3.8 アンケートの作成

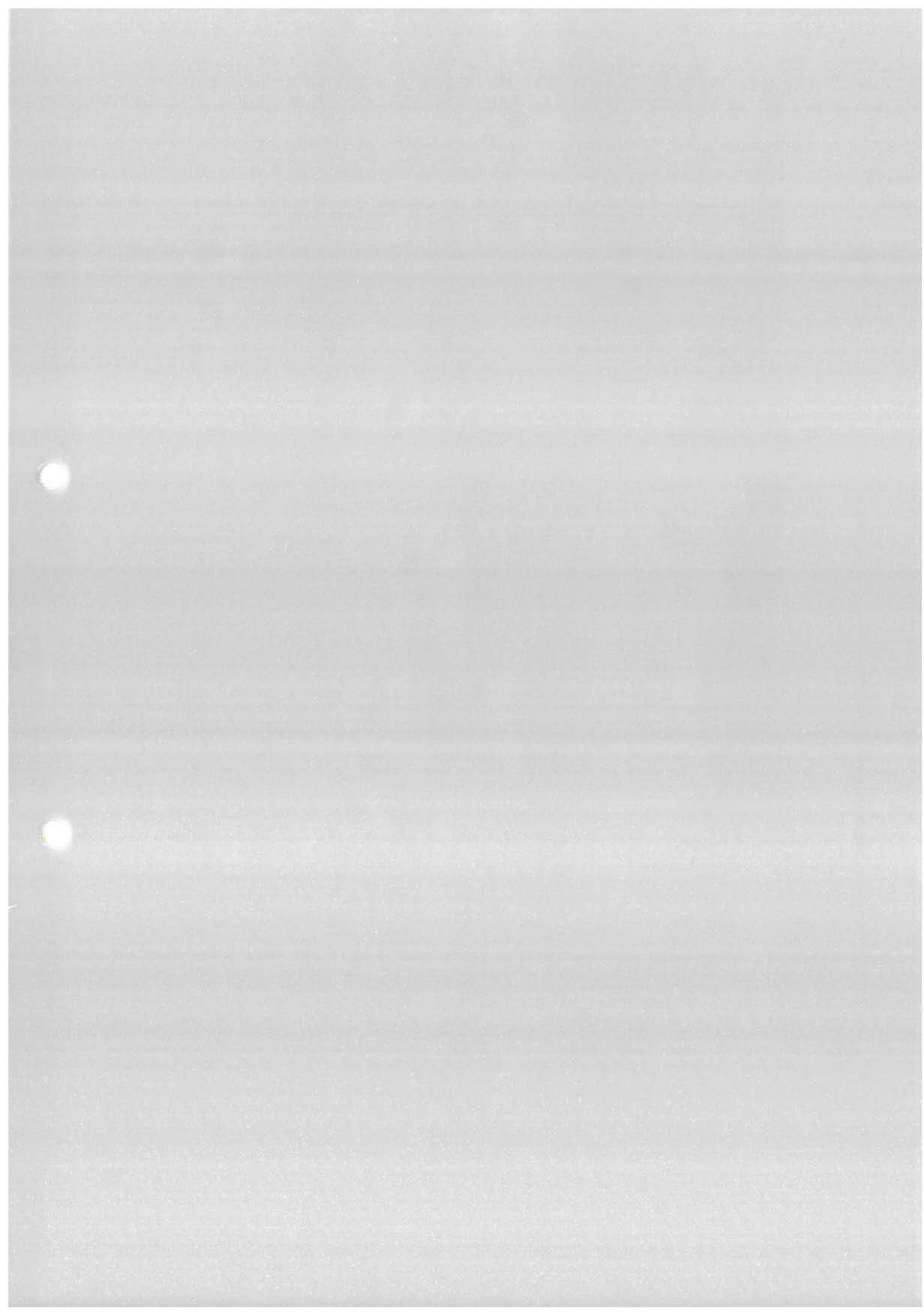
本ワークショップの参加者の年齢層やワークショップに対する感想、意見を把握するためアンケートを実施する。内容を下記に示す。アンケート結果は後述する。

[基本情報] (全て選択形式)

- (1)年齢
- (2)職業
- (3)家族構成

[多世代ワークショップについて] ((1)(3)：選択形式、(2)(4)：自由記述)

- (1)今回参加した理由
- (2)参加して感じたこと、気付いたこと
- (3)次回も参加したいか
- (4)(3)についてなぜそう思うのか



第5章 多世代ワークショップの実施

5.1 本章の目的

本章では、多世代ワークショップに参加したメンバーと、ワークショップ中
でてきたアイデアやコメントを記述する。

5.2 参加者について

当日は女性分科会に所属する 51 名に対して、27 名が参加予定だったが、子どもの体調不良や緊急の予定などにより、21 名が出席した。加子母の地域住民 21 名、「女性分科会」会長 F 氏、名古屋工業大学大学院藤岡研究室 12 名、加子母総合事務所総合事務所所長、加子母総合事務所 2 名、中津川市市民協働課 1 名の合計 44 名が当日のワークショップに参加した。参加者名簿を図 5.2-1、図 5.2-2 に示す。

■第4回女性分科会参加者名簿① No.1-22

No.	氏名	地区	所属
チーム「白雪姫」			
1	今井 睦美	小和知	農地利用最適化推進委員・図書ボランティアひなたぼっこ
2	前田 佐代子	番田	女性防火クラブ
3	岡崎 史子	中桑原	わらびの会・恵那こぶしの会
4	吉村 彩有里	中桑原	はっぴーたーん
5	安江 寿子	万賀	うさぎの会
チーム「シンデレラ」			
6	伊藤 由里	番田	子育てクラブくるりんぽ
7	纈纈 佐登子	中切	女性防火クラブ
8	小島 未来	上桑原	はっぴーたーん
9	加藤 恵	下桑原	日赤女性奉仕団
10	内木 美千代	万賀	うさぎの会
11	梅田 寿美	角領	恵那こぶしの会・かしも見守り隊
チーム「眠り姫」			
12	田口 恵子	番田	ファンファーマーミング
13	林 裕子	中切	女性防火クラブ
14	林 あい子	上桑原	加子母保育園長
15	田口 由子	下桑原	日赤奉仕団女性分団
16	安江 愛子	万賀	むら協地域づくり分科会
17	梅田 時江	角領	わらびの会・加子母見守り隊
チーム「人魚姫」			
18	岩木 美紀	中切	性わらびの会
19	桂川 富美代	上桑原	女性防火クラブ
20	渡辺 希代子	上桑原	かしも通信社・むら協少子化対策委員会
21	梅田 豊子	角領	地域福祉推進委員
22	安江 晶代	角領	図書ボランティアひなたぼっこ

図 5.2-1 多世代ワークショップ参加者名簿 1/2

■第4回女性分科会参加者名簿① No.23-43

No.	氏名	地区	所属
チーム「髪長姫」			
23	佐藤 真由美	小和知	女性防火クラブ
24	田口 麻里子	小和知	社会福祉協議会
25	脇坂 文子	中切	わらびの会
26	梅田 好美	万賀	図書ボランティアひなたぼっこ
27	佐藤 由美	角領	女性防火クラブ
No.	氏名	グループ	所属
28	古田 甲	総括	女性分科会 会長
29	藤岡 伸子	総括	名古屋工業大学 教授
30	山崎 有香	司会	名古屋工業大学 学生
31	加藤 光永	1階案内	名古屋工業大学 学生 (チーム白雪姫)
32	関谷 侑香	会場案内	名古屋工業大学 学生 (チームシンデレラ)
!!	伊藤 あづみ	受付	名古屋工業大学 学生 (チーム眠り姫)
34	君島 里歩	会場案内	名古屋工業大学 学生 (チーム人魚姫)
! "	山本 帆南	受付	名古屋工業大学 学生 (チーム髪長姫)
! #	藤井 南帆	記録	名古屋工業大学 学生
! \$	ヨウ・ソウカギョク	フリードリンク	名古屋工業大学 学生
38	久田 佳明	託児	名古屋工業大学 学生
39	田中 千柳	託児	名古屋工業大学 学生
40	鳥居 寛	託児	名古屋工業大学 学生
41	安江 めぐみ		中津川市市民協働課
42	瀬瀬 理恵	事務局	加子母総合事務所
43	田口 幸子	事務局	加子母総合事務所

図 5.2-2 多世代ワークショップ参加者名簿 2/2

5.3 ワークショップにおけるグループワークの様子

ここでは、ワークショップの交流のテーマである「①いま加子母で、できること」「②わたし、わたしたちができること」に対して5チーム（「白雪姫」「シンデレラ」「眠り姫」「人魚姫」「髪長姫」）それぞれで出た意見やアイデア、ワークシートについて記述する。

5.3.1 白雪姫：「つながる」

メンバーには「女性防火クラブ」や「うさぎ会」に所属する人が多く、加子母の現状について「子どもやお年寄りの情報を知らない」、「それぞれの団体やグループが手足を伸ばしていくと、いろんなところでつながって様々な活動ができるようになる（例えば、一緒に何かをするコラボ活動など）」と考えている。

「うさぎ」さんが
可願して（防災の）

女性防火クラブ

年配の方と、防災についての話をしたら？

消防さんとの架け橋に

役まわりで軽く仕事
なので、盛り上がり
は変わりま...

防火クラブの
メンバーは専業主婦
活動に手が回らない
くらい忙しい

日赤も一緒にできるのかも。

子どもたちにも防災について教えたなら？

→見守り隊に協力していただけたら？

コラボした会
以外での
交流の広がりか
見込めたい...

消防、防火、
防災は
交流クラブが
しやすそう

小さいおまさんの
情報か
あまり出回ってない

万歳の子どものたち
情報が少ない
もちろん、他の区も
子どものことは知らない

テーマは
特に
ありません

「狩り」を
しよう！

こぶしの会

♥「おしゃべり」世代の方に
餅土料理を教えたなら？

↓

♥わらじの会の方に協力していただいた。

今、加子母で できることば？

いちご狩り
→ジャムとか
作ったり
昔も買ったことある？

とらもち作り

トマト狩りも

楽しいこと
が一番

わらじの会
は美味しい
ものを作って
もちもち
うさぎ

うさぎ会

「おしゃべり」さんと一緒に。
(交流をかねて)

うさぎ会で
ファンクアエロミクスへ
いちご狩り

チーム「白雪姫」

図 5.3.1-1 「白雪姫」ワークシート

5.3.2 シンデレラ：「楽しく続ける」

チームメンバーの中には2018年から活動を始めた「はっぴーたん」の代表K氏など若い世代もいたため、「一度始めた活動を楽しく続けたい」と活動を継続することを重点に置いている。また、活動を知ってもらう、参加してもらうことに対して「チラシで告知することも大事だけど、直接顔を合わせて『一緒にやらない?』と声をかけることで、グループ同士のつながりを地域で広げていけるといいな」と考えている。

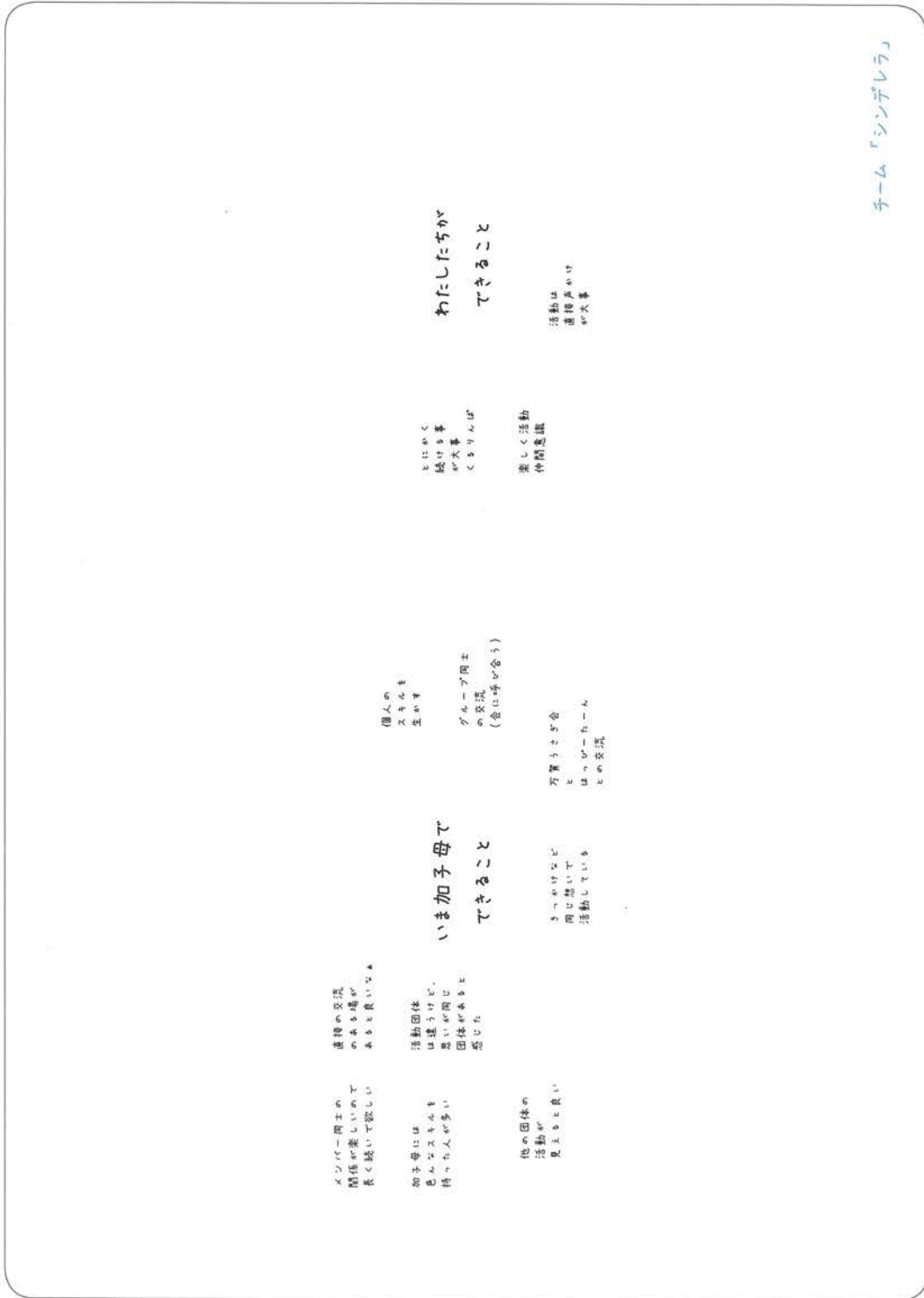


図 5.3.2-1 「シンデレラ」ワークシート

5.3.3 眠り姫：「加子母がもっと楽しくなる」

「眠り姫」では、「子ども連れでもわかりやすい内容で、行きやすい場やちょっとしたことをならえる場が欲しい」など子育て世代を中心とした意見が出た。「団体がどこかと一緒にあって『生き方が楽しくなる』ことにつながるといいな」ともまとめており、これからの加子母での生活を団体を通して良いものになりたいと考えている。

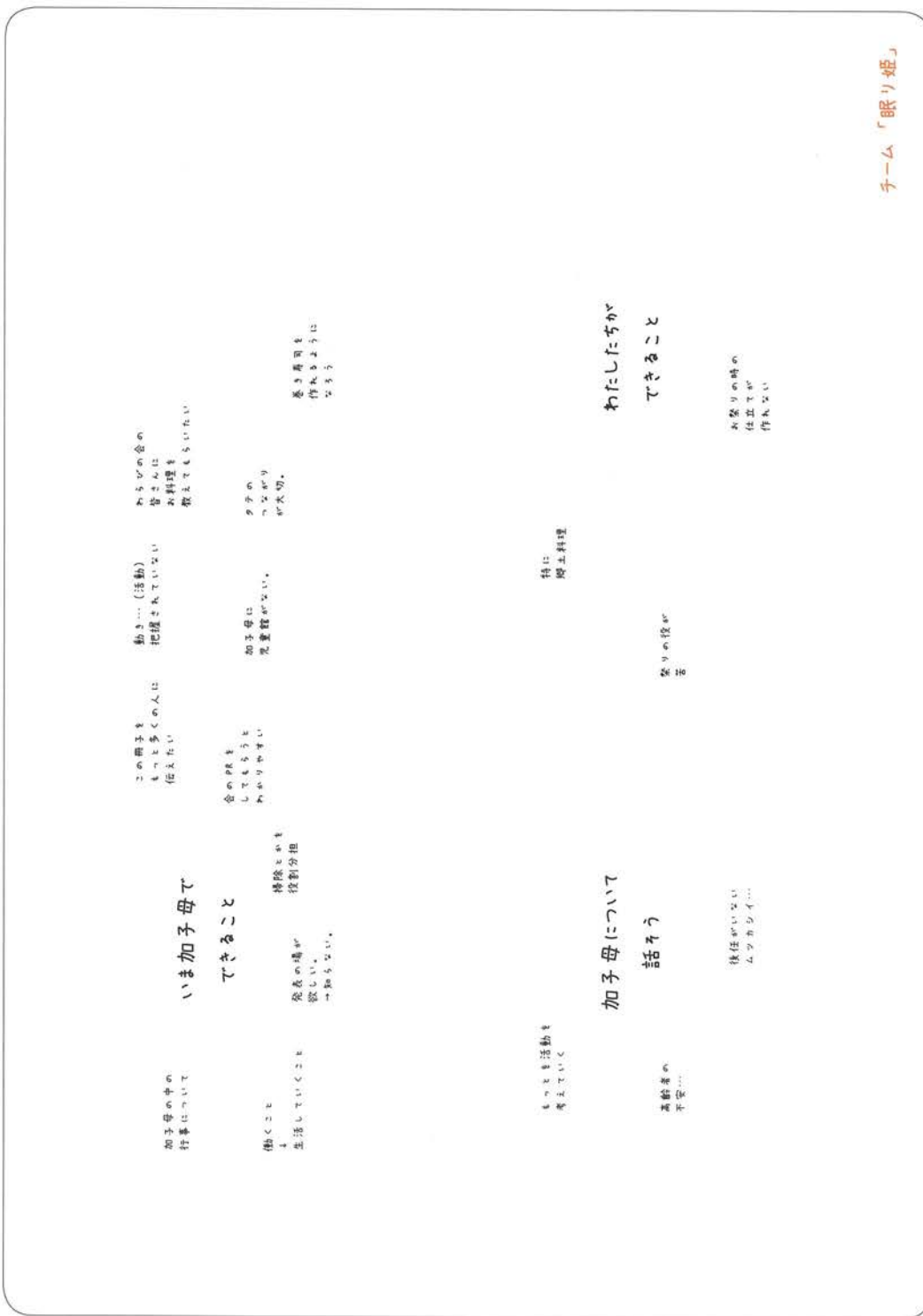


図 5.3.3-1 「眠り姫」ワークシート

5.3.4 人魚姫：「住みよい加子母にしよまいかい」

チーム「人魚姫」では、「住みよい加子母にしよまいかい」というテーマを掲げ、団体の交流やコラボを通して、昔からある加子母の伝統料理を若い人たちへ伝えるきっかけを与える案が出た。

5.3.5 髪長姫：「思っていること感じていること」

「髪長姫」は、「こういう集まりに出る人が、同じ顔ぶればかりになっている」、「役が多すぎて忙しい（掛け持ちしてる）」としており、この加子母の現状に対して今後はもう少し役が分担されて、幅広い世代で集まれるといい、と考えている。

5.4 総括コメント

本ワークショップの総括として、「女性分科会」会長 F 氏は、普段関わりを持たない属性の人々が集まることで、予期せぬ相乗効果が生じることの重要性について言及し、「女性分科会」に関わる人や団体の多様性が重要である認識を改めて明示した。

5.5 小結

多世代ワークショップを通して、参加者たちは個々で主体的に活動する団体について詳しく知ることができた。特にグループワークでは、普段の生活の中で混じり合うことのない属性の人々との交流を楽しみ、積極的にアイデアを出し合うなど、多世代交流や地域活動に対して前向きに取り組む姿勢を確認できた。

第6章 参加者へのアンケート調査

6.1 本章の目的

本章では、アンケートの「概要」「項目」「結果」について詳述する。

6.2 調査概要

多世代ワークショップの最後に、参加者全員にその場でアンケートを記述してもらい、回収を行った。調査の概要を下記に詳述する。

調査日時：2019年10月30日

調査対象：多世代ワークショップ参加者（計21名）

調査内容：参加者の年齢層、多世代交流に対する興味関心、本ワークショップの感想や意見を把握するため、選択形式と記述形式で構成した。

6.3 調査項目

参加者に本ワークショップの参加者の年齢層やワークショップに対する感想、意見を把握するためアンケートを実施した。項目を下記に示す。

[基本情報] (全て選択形式)

(1)年齢

(2)職業

[多世代ワークショップについて] ((1)(3)：選択形式、(2)(4)：自由記述)

(1)今回参加した理由

(2)参加して感じたこと、気付いたこと

(3)次回も参加したいか

(4)(3)についてなぜそう思うのか

6.4 調査結果

アンケートの項目に沿って、調査結果を詳述する。

6.4.1 【基本情報】年齢《選択形式》

参加者 21 名中、71.4% に当たる 15 名が 50 ～ 60 代で、参加年齢層は比較的高かった。実際に、子ども連れの参加が予定されていたが、子どもの体調不良によって欠席することになり、子育て世代の参加はなかなか難しいのではないかと考えられる。

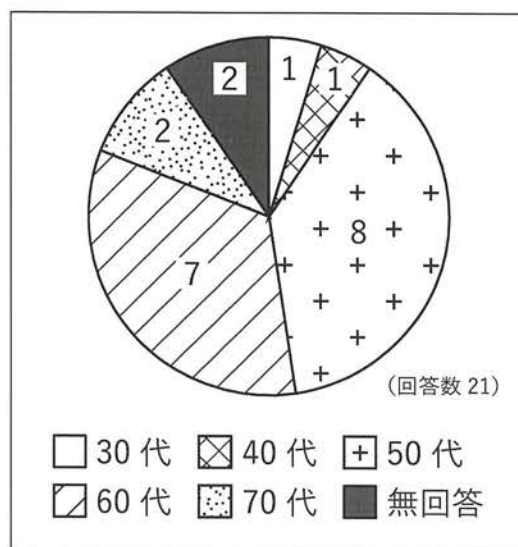


図 6.4.1-1 年齢

6.4.2 【基本情報】職業《選択形式》

職業は「パートやアルバイトを含む専業主婦」の割合が一番高いが、61.9%にとどまり、約4割の女性たちは働きながらも地域活動に携わろうとしていることが確認できた。

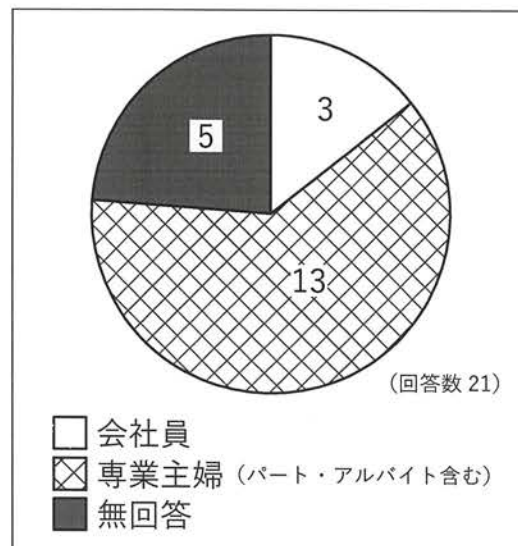


図 6.4.2-1 職業

6.4.3 【多世代ワークショップについて】参加理由《選択形式》（複数回答可）

本ワークショップの参加理由について、複数回答は2件で、1件は「参加団体の活動への興味」と「交流への興味」と回答しており、もう1件は「参加団体の活動への興味」と「交流への興味」を挙げていた。回答の割合をみると、「その他」が37.5%と一番高く、明記したものの中には「責任」や「通知や案内が来たから」という回答もあり、一部の参加者は義務感によって参加していた。

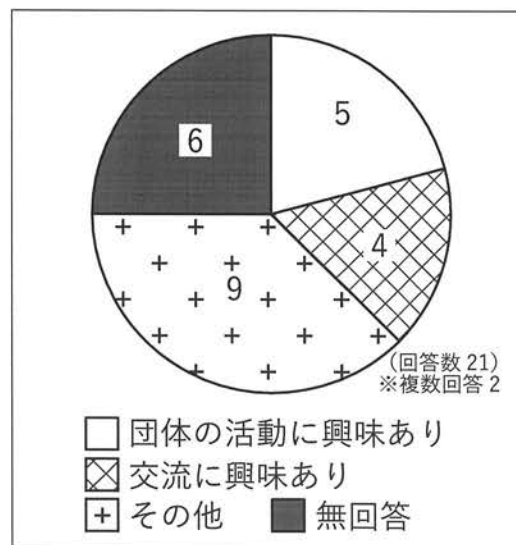


図 6.4.3-1 多世代ワークショップの参加理由

6.4.4 【多世代ワークショップについて】参加して感じたこと、気づいたこと 《自由記述形式》

18件の回答を趣旨ごとに区切り、30センテンスに細分した。さらに、〔発見〕〔疑問〕〔提案〕〔願望〕〔感想〕の5つのカテゴリーに分類した。内容を表6.4.4-1に示す。30文中14文の46.7%が〔発見〕にあたり、約半数を占める参加者が他団体の活動内容に興味関心を示した。〔疑問〕では「各団体で資格は必要なのか」と団体へ参加資格を確認するものや、「少子化社会の中で、子育て世代を対象とした団体が2つ必要なのか」と指摘する意見もあり、各団体の運営方針や体制を見直す必要があると考えられる。〔提案〕、〔願望〕では冊子の配布や各団体の名刺の作成・配布が有効ではないかと提案する声もあり、冊子の有用性が確認でき、発展の余地が見出された。

表 6.4.4-1 多世代ワークショップに参加して、感じたことや気づいたこと

分類項目	自由記述
知る	<ul style="list-style-type: none"> ・加子母の中に多くの団体があることを知った。 ・加子母でも色々な会が活動していることがわかりました。 ・色々な会のこと知れて良かった。 ・加子母の中にたくさんの活動と、それを生き生きと行っている人たちがたくさんみえることがよくわかりました。 ・加子母にこんなグループがあって、こんな内容のことをしていることが、新しい発見でした。 ・団体の活動内容がよくわかりました。 ・若い人の考えやいろんな活動内容がわかって良かった。 ・加子母で名前を聞く会ではあったけど、今回冊子を見て内容等、初めて知ることばかりで良かったと思います。 ・他の団体の活動内容が知れて良かったです。 ・団体紹介で知らなかったことが、わかりました。 ・グループが何かをしてみえるのか、名前がわかった。 ・参加団体名はよく耳にしますが、活動内容がよくわかりました。 ・どんな団体があるのか知ることができて良かった。 ・色々な方々が活動されていることを知りました。
疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体で、資格は必要なのか。 ・保険など、どうしているのか。 ・「くるりんぱ」と「はっぴーたん」と子育て中利用で、2つ必要なのでしょうか。(子どもが少ない中)
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・私は2つの団体に入っていますが、他の団体の人と一緒に活動することがもっとできるのではまいかと思いました。 ・あと、ささゆりボランティア(社協の配食サービス)という団体もありますよ。 ・各団体で名刺を作って配って活動を知ってもらおうとつながりが広がるかも?
願望	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体がコラボするといいネ ・もっといろんな人にも知ってもらえるといいなと思いました。 ・今日のこの会のまとめみたいなのを作られたら欲しい!!です。 ・知らない人も多いと思うので発表でも出ていましたが、色々な人に冊子が配られるといいと思います。 ・どこかでコラボできるといいなと思いました。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・広がっていく何かのきっかけになると思います。 ・団体の活動内容を知らなくて、恥ずかしい… ・初めての参加でしたが、みなさん活発に活動しておられ、喜ばしい。 ・地域を良くしたいという同じ想いで活動しているんだということを感じました。 ・本当に知らない方ばかりだったのですが、お話できて良かったと思います。

6.4.5 【多世代ワークショップについて】次回の参加希望《選択形式》

6.4.3の参加理由では、責任や義務感による回答もあったが、参加後は肯定的な展開がみられ、「次回も参加したい」と回答したのは16件の76.2%で、「参加したくない」とする回答は皆無であった。「その他」は1件で、時間があれば参加したいとし、前向きな姿勢が確認できた。

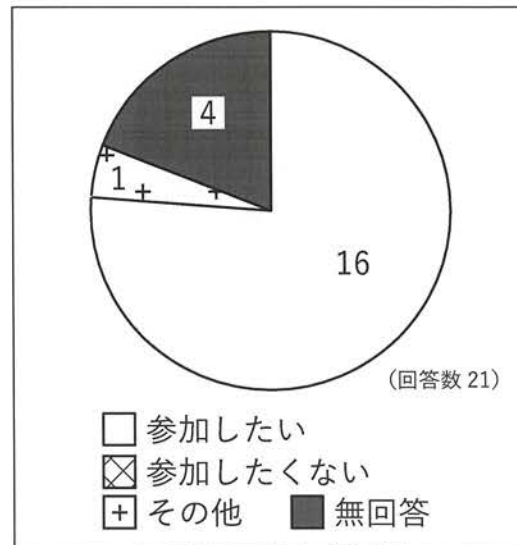


図 6.4.5-1 次回の参加希望

6.4.6 【多世代ワークショップについて】次回の参加希望の理由《自由記述形式》

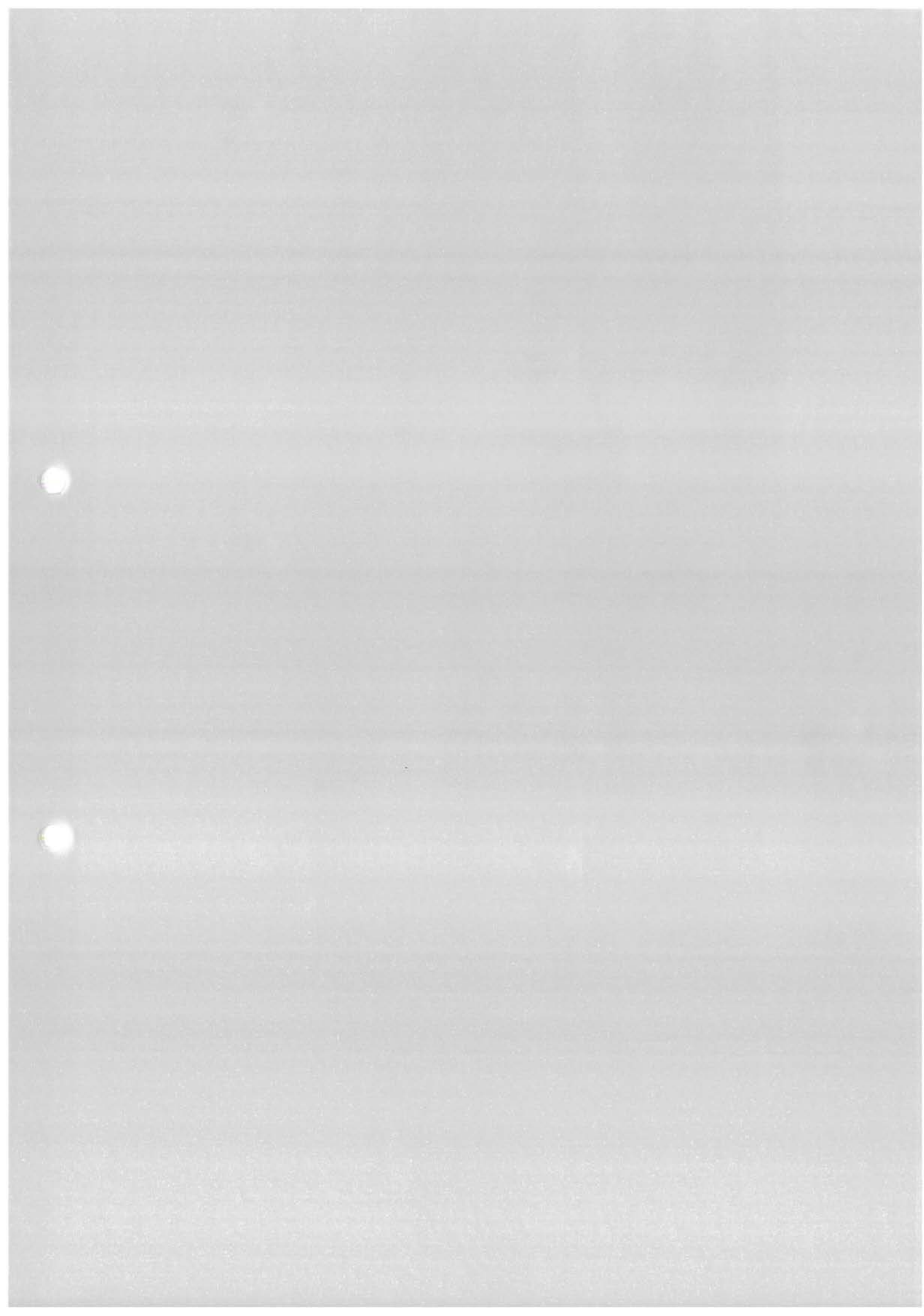
前述した6.4.4と同様に、要旨ごとに回答14件を20センテンスに分解し、〔楽しい〕〔推奨〕〔提案〕〔願望〕〔発見〕〔感謝〕の6カテゴリーに分けた。詳細を表6.4.6-1に示す。〔楽しい〕では本ワークショップを楽しむ声や、〔推奨〕と〔発見〕から子どもの学校卒業や仕事と家事の往復に伴い、地域活動に関する情報に触れる機会が減少する傾向にあることがわかった。〔願望〕本ワークショップに参加した女性だけでなく、地域活動に参加しない女性たちや男性からも意見を聞きたいというコメントもあり、多世代ワークショップを多様な地域住民に広めていく必要があるとわかった。

表 6.4.6-1 次回の参加希望の理由

分類項目	自由記述
楽しい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を教えてもらえて楽しかったです。 ・思った以上に楽しかった。 ・色々な話が聞けて、おしゃべりできて楽しいです。
推奨	<ul style="list-style-type: none"> ・特に子どもが学校を卒業すると交流の場がぐっと減るので、こういう場があると色々な人と会話する機会が増えるのでいいと思います。
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・タダ、座っているのが辛かったです。イスの方がいいです。 ・今回は初めてだったので、始動に時間がかかりましたが、次回は早いかな？（どういうものかわからなかったので…）
願望	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも「つながり」を大事にしていきたいと思います。 ・たまたま今日は時間があつたので出れましたが、なかなか時間が無くて、もう少し時間ができるようになったら、また参加できると思います。 ・もっと色々なことを知りたいです。 ・加子母の人たちの考えを聞きたい。 ・予定が合えば、参加したい。
発見	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な会の活動内容（情報）がわかり、頭が少しやわらかくなったように思います。 ・自分たちの団体だけの活動にとどまらない事が地域のために生かされていくと思います。 ・普段は家事と仕事で地域のことを知っているようで知らないことが多いです。 ・知らない人と会えるから。 ・この先、まだまだ加子母にいて何ができるのか、とか考えます。
感謝	<ul style="list-style-type: none"> ・お疲れサマです。 ・ありがちゃん、ありがとう。お疲れ様でした。 ・ありがとうございました。 ・学生さんたちも親切で嬉しかったです。

6.5 小結

アンケート調査より、参加者たちは多世代ワークショップを通して、個々で主体的に活動する団体について詳しく知ることができ、女性活動団体という地域資源を発見することができた。さらに、本ワークショップのような、女性たちの情報・意見交換の場を設ける重要性や、団体同士の協力関係を築くことで、より良い地域づくりにつながる見解が得られた。



第7章 地域全体へのフィードバック

7.1 本章の目的

多世代ワークショップについてまとめたものを、加子母地区全体へフィードバックを行った。以下にその内容について詳述する。

7.2 むら協ニュースの作成・発行

第6章から、多世代ワークショップに参加した女性だけでなく、地域活動に参加しない女性たちや男性からも意見を聞きたいというコメントや、本ワークショップのまとめが欲しいという意見が確認された。それによって、多世代ワークショップを多様な地域住民に広めていく必要があるとわかった。

それを受け、「加子母むらづくり協議会」の依頼により、同組織が発行する『かしもむら協ニュース』において、多世代WSの内容と参加者の感想や意見をまとめた『名工大特別号!』（A3、両面）を作成し、「加子母むらづくり協議会」が加子母地区全戸に配布した。さらに、ワークショップ参加者には「女性分科会」が個別に郵送した。

2019年度 藤岡研究室活動紹介

毎年、藤岡研究室では、学生一人ひとりがそれぞれのテーマで研究活動をしており、今年も4名の学生が加子母で研究活動をさせていただいています。研究にあたり、アンケート調査等も実施させていただきました。ご協力ありがとうございました。

■ 恵那こぶしの会森林教室（卒業研究担当：学部4年 田中千柳）

10月5日、恵那こぶしの会と藤岡研究室が協同して、去年に引き続き「種々の森」にて、小学生のみなさんと森林教室を開催しました。五感を使ったネイチャーゲームや、田口達さんと田口大志さんによる木室り・プランコ・編み物の山遊トレックチャータン、去年よりもさらにパワーアップし、充実した森林教室となりました。



■ 加子母小学校ビオトープ 植物観察会・植物図鑑の制作

（修士研究担当：修士2年 山本 朝南）

昨年の「生き物観察会・生き物図鑑の制作」に引き続き、今年も「植物」に着目しました。小学校4年生のみなさんと一緒にビオトープで植物観察会を行い、観察会を通して見つけた植物をまとめて、『ビオトープ植物図鑑』を制作しました。また秋の観察会では、子どもたちに図鑑をプレゼントしたあと、ビオトープの樹木に樹木名プレートをつけ、秋のビオトープの様子を観察しました。



■ 学びの森 樹木観察会・樹木プレートの制作

（修士研究担当：修士2年 久田 佳明）

加子母小学校の隣にある「学びの森」は、15年前に一度植生が全て伐採された後に、自然発生的に植生が再生された里山林となっており、フリ・コナラ・ホオノキなど多種多様な広葉樹が観察できるようになっています。そこで、小学校3年生のみなさんと学びの森にある樹木の葉っぱを観察してスキャッチしたり、幹囲の測定をして、ひとり1枚樹木プレートを作成しました。



今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします！

かしむら協ニュース

令和元年11月25日 第77号
加子母むらづくり協議会
NPO法人かしむら
《発行》地域づくり分科会
名古屋工業大学 藤岡研究室

「多世代ワークショップ」の開催 加子母で活動する女性団体のみなさんと交流しました！



加子母のみなさん、こんにちは！名古屋工業大学藤岡研究室の山崎 有香（やまざき ありか）です。10月30日に女性分科会と藤岡研究室が協働して、ふれあいのやかりたで女性活動団体のみなさんと「多世代ワークショップ」を開催しました。むら協ニュースをお借りして、ワークショップ当日の雰囲気や交流の中で話し合ったことを紹介させていただきます。

■ ワークショップ当日の流れ

19:30 「ワークショップ開始」
総勢21名の方に集まってくれました！

19:35 「参加団体紹介タイム」
9団体の方にどんな活動をしているのかを発表していただきました。

《参加団体》（順不同）
はろわーたーん・むらむらっこ・むらむらの会
恵那こぶしの会・日赤女性奉仕団
見守り隊



《冊子に書いてあること》
【基本情報】
活動メンバー/活動のきっかけ/活動内容/活動日時/場所/利用者【やりたいこと、お困りごと】/活動写真！



白雲館・シンアレータ
眠り館・人魚館・製菓館の
5つのチーム！

20:05 「交流スタート♪」

いよいよ、グループに分かれて交流開始！
《テーマ①》「いま加子母で、できること」
《テーマ②》「わたし（たち）がでること」

図 7.2-1 むら協ニュース 名工大特集号 1/2

■ワークショップに参加して、感じたことや気付いたこと

参加したみなさんのコメントの一部をご紹介します！

加子母の中には多くの団体があ
ることを知り、もっといろいろな人にも
知ってもらえるといいなと思いました。

各団体で名刺を作って
配って活動を知ってもらおうと
つながりが広がるかも？

地域を良くしたいという
同じ想いで活動している人だ
ということを感じました。

加子母で名前を聞く会ではあったけど、
今回も冊子を見て、内容等、初めて知ること
ばかりで良かったと思います。
知らない人も多いと思うので発表でも
出てほしいなと思います。

普段は家と仕事と地域のことを
知っているよう知らないことが多いです。
特に子どもが学校を卒業すると交流の場が
減るので、こういう場があると
色々な人と会話する機会が増えるので
いいと思います。

本当に知らない方ばかりだった
のですが、お話しできて良かったと
思います。
参加団体名はよく耳にしますが、
活動内容がよくわかりました。

他の団体の活動内容を知れて
よかったです。
私は2つの団体に入っていますが、
他の団体の人と一緒に活動することが
もってこいではないかと思いました。

若い人の考えや
いろんな活動がわかっ
て良かった。

これからも「つながり」を
大事にしていきたいと思います。

もっと色々なことを
知りたいです。

20:45

「成果発表」各チームごとに話し合ったことを発表！

白雪姫：「つながる」

- ・一度始めた活動を楽しく続けたい！
- ・チラシで告知することもあるけど、直接顔を合せて「一緒にやらない？」と声をかけることで、グループ同士のつながりを地域で広げていけるといいな

人魚姫：「住みよい加子母にしよう！」

- ・昔からある料理を若い人たちに伝えていくために、行事に関連する料理を作ってみよう
- ・お年寄りと交流しながら作ることで、より良い住みよい加子母になるのでは？

髪長姫：「思っていること感じていること」

- ・こういう集まりに出る人が、同じ顔ぶればかりになっていく
- ・役が多すぎて忙しい（掛け持ちしてる）
- ・もう少し役が分担されて、幅広い世代で集まれるといいな



いろいろなアイデアが出てきましたよ

21:00

「まとめ」女性分科会会長の古田甲さんと、藤田先生にコメントいただきました。

女性分科会会長 古田 甲さん

今日改めて、女性分科会ってこういう人たちの集まりなんだな、ということを感じました。2018年3月にも今日のように集まって出してきたアイデアから「松屋カフェ」を開催したり、「おじいちゃん」とコラボしてアロマスプレーを作ったりしました。今日みなさんかいろんな話をしてくれたことが、また来年、また明日から、加子母の中でつながっていくことができるとも思います！

名古屋工業大学 藤田先生

みんな今回のワークショップのような機会をもって、他の団体の人たちがこんなことをしているのかアテナを広げて欲しいと思います。また他のチームに何をしてあげられるのか、この人たちがこんなことをしてたら嬉しいとか、考えていくと、具体的なアイデアにつながって、活動が広がるようになったら素晴らしいなと思います。

21:10

「ワークショップ終了」みなさん、長時間お疲れ様でした！

図 7.2-2 むら協ニュース 名工大特集号 2/2

令和元年11月22日

10/30 開催 おら協女性分科会
「多世代ワークショップ」のご案内をさせていただいた皆様へ

女性分科会会長 古田甲

加子母むらづくり協議会ニュース 名工大特別号について

朝晩とても冷えるようになり、冬がもうすぐそこまで来ているなど感じる今日この頃ですね。

先日は、女性分科会「多世代ワークショップ」にご参加いただきありがとうございました。また、今回ご欠席の方も、機会がありましたら、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

今回のワークショップは、域学連携事業として加子母で活動している名古屋工業大学 藤岡伸子研究室の山崎さんが企画しました。各団体の皆様には、事前に聞き取りなどにご協力いただき、女性団体の冊子を作成することもできました。本当にありがとうございました。

山崎さんがワークショップ当日の様子などをまとめたものを、加子母むらづくり協議会ニュースの特別号として、今月の区長会を通じて地域のみなさんに配らせていただきます。

ご案内させていただいた皆様には、先にお配りさせていただきます。また、こんなことやってみたい!という企画などありましたら、ぜひお気軽にご相談ください。今後も、どうぞ、よろしく願いいたします。

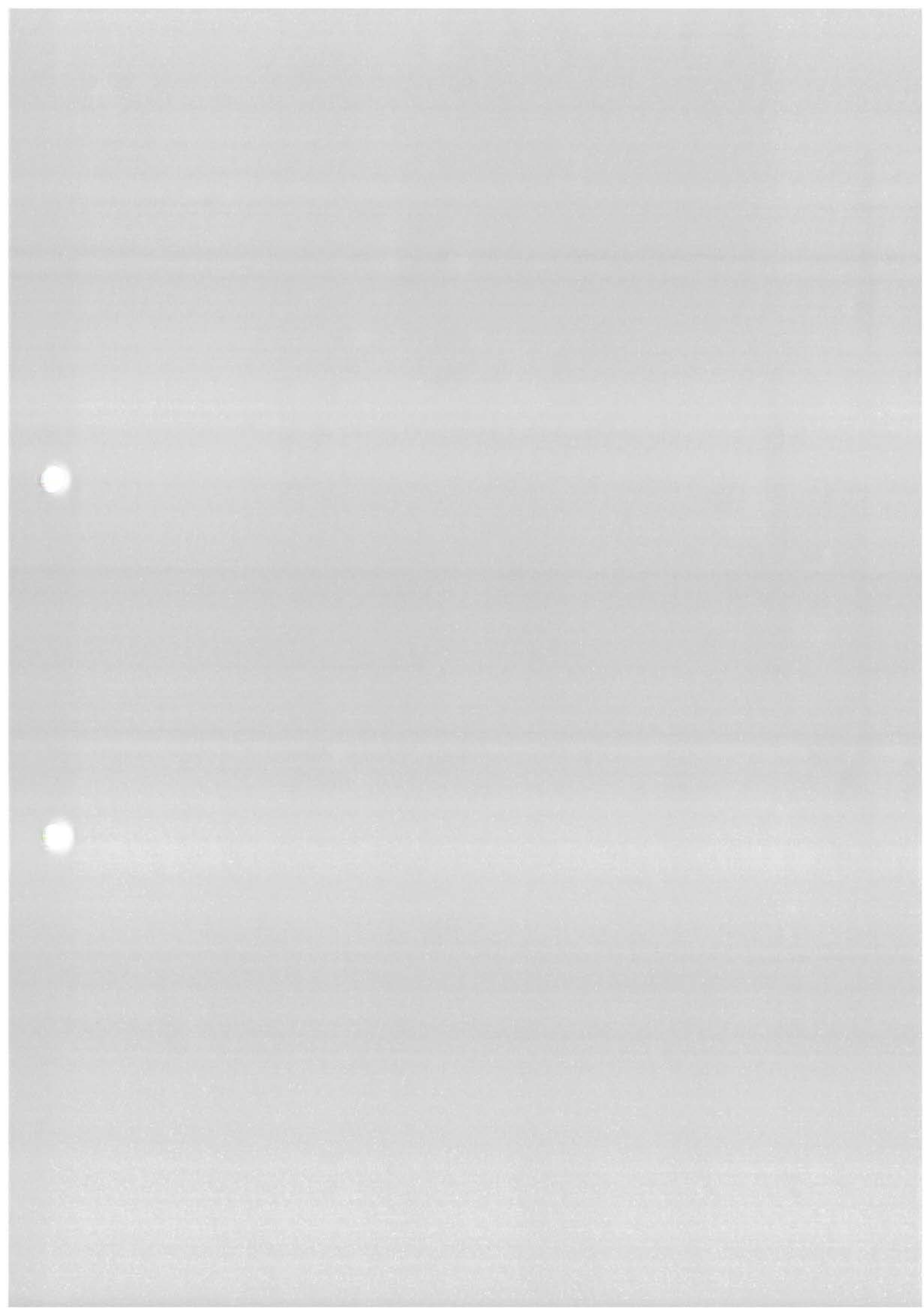


《女性分科会事務局》
加子母総合事務所
瀬戸・田口
電話 79-2111

図 7.2-3 加子母むらづくり協議会ニュース 名工大特別号の通知

7.3 小結

「加子母むらづくり協議会」は地域広報活動に対して協力的であり、またその環境が整っていることがわかった。



第 8 章 結論

8.1 まとめ

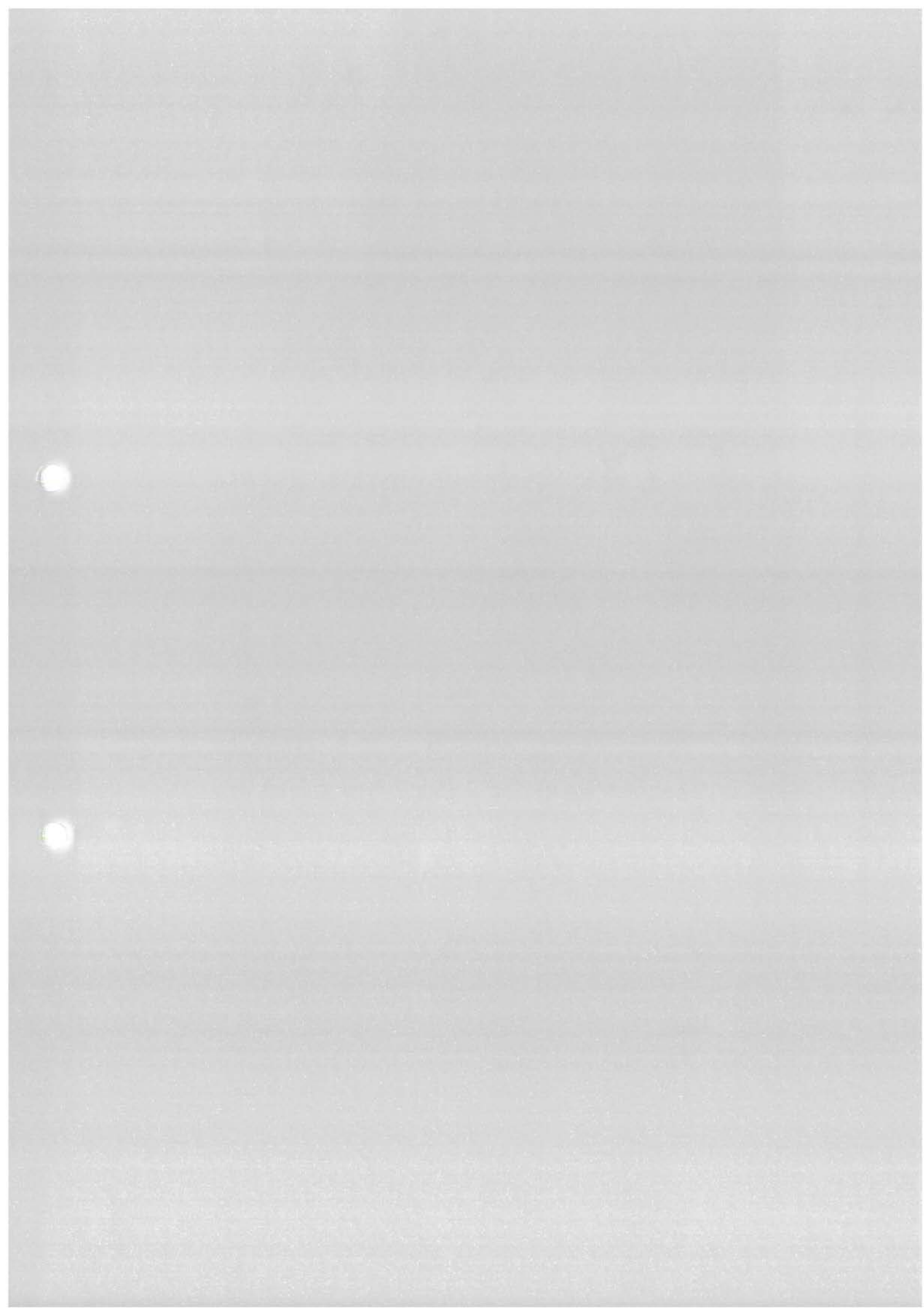
聞き取り調査から、各団体の共通課題・意識が下記の4点確認できた。

- ①「各団体で実質活動するメンバーはごく少数」
- ②「人手不足」
- ③「活動の継承が困難」
- ④「義務感による継続は不本意である」

さらに、多世代WSを通じて、参加者たちは自身が所属する団体以外に、個々で主体的に活動する団体について詳しく知ることができた。彼女たちは、それぞれが「地域を良くしたい」という共通の目的意識を持って活動していることを理解し、団体同士で協力関係を築き得るという展望を持った。

8.2 今後の課題と展望

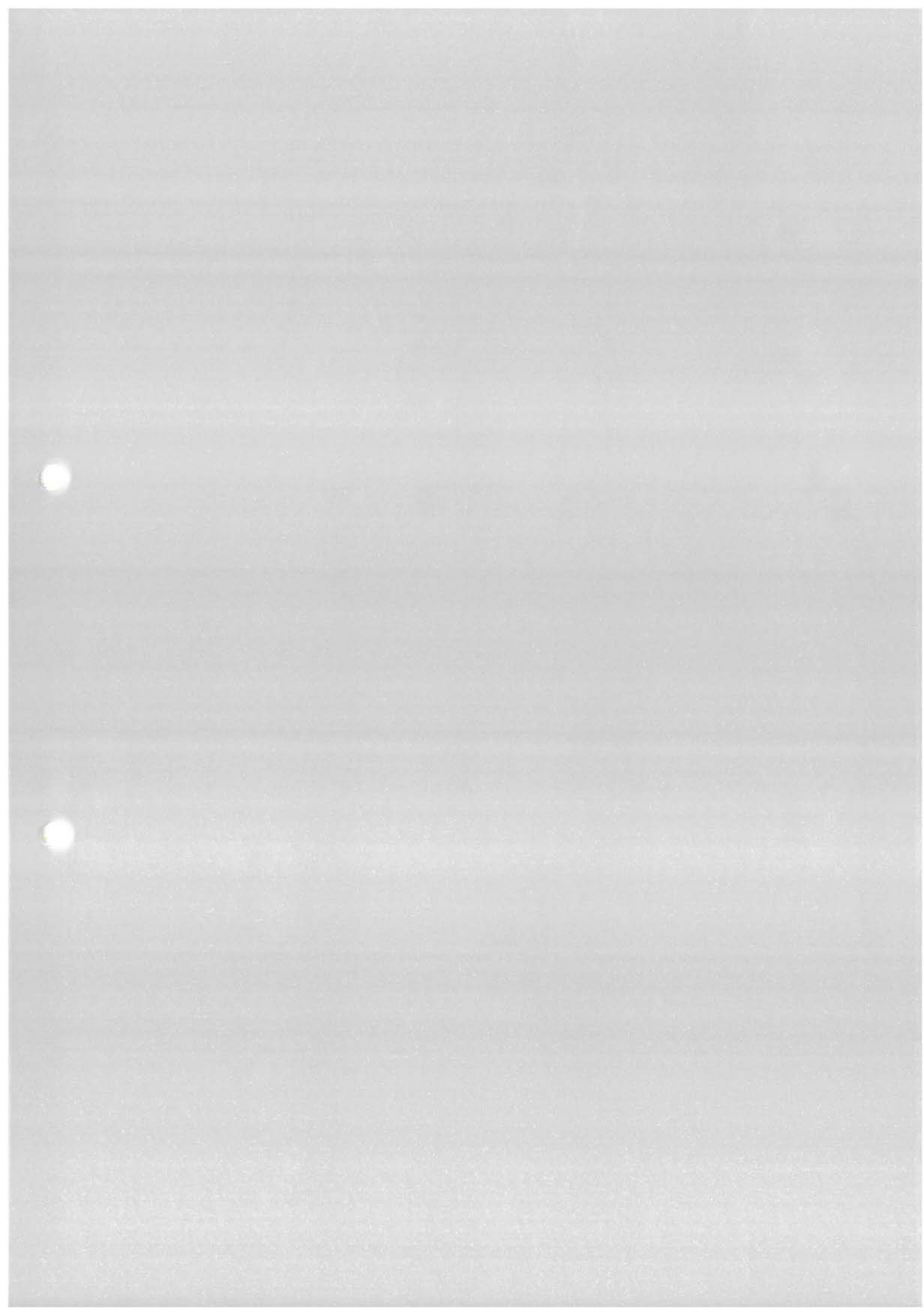
今後、加子母地区で活動する女性たちが、互いに自団体の情報を地域全体で把握・共有するために多世代WSを継続して開催する、各団体の情報をまとめた団体紹介冊子を配布するなどして、所属団体の活動だけでなく、他団体の動向にも意識を向けることが不可欠である。さらに、各女性活動団体に共通する課題点やニーズに対して、団体同士で協働して、お互いに補い合う関係性を築くことで、活動の幅が今まで以上に広がるだけでなく、より実効性の高い地域活動へつながるといふ展望が得られた。



参考文献

参考文献一覧

- [1] 饗庭伸, 山崎亮, 小泉瑛一『まちづくりの仕事ガイドブック まちの未来をつくる 63 の働き方』(学芸出版社, 2016)
- [2] 加子母村誌編集委員会『加子母村誌』(加子母村, 1972)
- [3] 加子母村文化財保護委員会『加子母の歴史と伝承』(加子母村教育委員会, 1983)
- [4] 加子母村文化財保護委員会『加子母の歴史と伝承・続編』(加子母村教育委員会, 1990)
- [5] 加子母村文化財保護委員会『加子母の歴史と伝承 (第三編)』(加子母村教育委員会, 1997)
- [6] 香取一昭, 大川恒『ワールド・カフェをやろう!』(日本経済新聞出版社, 2009)
- [7] 國分功一郎, 山崎亮『僕らの社会主義』(筑摩書房, 2017)
- [8] 山崎亮『コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる』(学芸出版社, 2011)
- [9] 山崎亮『コミュニティデザインの時代 自分たちで「まち」をつくる』(中央公論新社, 2012)
- [10] 山崎亮『ふるさとを元気にする仕事』(筑摩書房, 2015)



謝辭

謝辞

本研究を進めるにあたり、藤岡伸子教授には様々な面でご指導、ご協力いただきました。まず、大学院入試が控えた頃から、入試用のスライドやプレゼンテーションを丁寧にご指導いただき、無事に入学することができました。入学してからも、プライベートな相談をさせていただいた際には親身に聞いてくださり、また、加子母と名古屋の往復でなかなか研究室に顔を出せずにいた私に「大丈夫？」とお声がけいただいたり、藤岡教授の心優しいお気遣いとお力添えのおかげで、充実した院生生活を送ることができました。藤岡教授にいただいた、知識と加子母の方々とのご縁をこれからも大切にしていきたいと思えます。

また、お忙しい中、女性活動団体の皆様には、聞き取り調査にご協力いただき、ありがとうございました。

加子母むらづくり協議会女性分科会会長の古田甲氏には、まだ研究のテーマが定まっていない中、気さくに自宅に招いていただき、加子母地区における子育てや福祉の現状や、古田氏自身の活動を教えていただきました。それから研究の方向性やワークショップの計画など、数え切れないほど打ち合わせを重ねていただきました。

安江寿子氏、熊澤恵美子氏をはじめとする高齢者サロン「うさぎ会」の皆様、梅田寿美氏をはじめとする女性林業団体「恵那こぶしの会」の皆様、梅田好美氏をはじめとする加子母図書室ボランティア「ひなたぼっこ」の皆様、小島未来氏と元気いっぱいのお子さんたちをはじめとする「はっぴーたん」の皆様、安江泰子氏、伊藤由美氏、三尾ゆみ氏をはじめとする加子母子育てクラブ「くるりんぱ」の皆様、脇坂文子氏、岡崎史子氏をはじめとするわらびの会の皆様、加藤恵氏をはじめとする「日赤女性奉仕団」の皆様、安江美和子氏をはじめとする「商工会婦人部」の皆様、本間希代子氏をはじめとする「かしも通信」の皆様、梅田みさき氏をはじめとする「見守り隊」の皆様には、お忙しい中、お時間をいただき、団体の発足、活動内容、継続への思いを丁寧に教えていただきました。調査活動で関わった皆様は、加子母地区内の道ですれ違ったり、イ

ベントで会うたびに「ありかちゃん！」と笑顔で手を振って声をかけていただき、それがとても大変嬉しく、研究の励みになりました。改めて御礼申し上げます。

さらに、伊藤公一氏、瀬瀬理恵氏、田口幸子氏をはじめとする加子母総合事務所の皆様には、多くのご協力をいただき、ありがとうございます。所長の伊藤氏には、ワークショップの内容をご説明させていただいた際に、しばらくしてスッと女性分科会の活動をまとめた書類を持たせていただきました。瀬瀬氏には、「こんな会があるよ」と女性が集まるイベントを教えていただきました。田口氏には、研究の方向性やワークショップの計画だけでなく、資料提供、宿泊など、様々な場面でサポートをしていただき、いつも気にかけてくださいました。加子母総合事務所の皆様のサポートなしには、この研究はできなかったと思います。

また、ワークショップに参加いただいた皆様に感謝いたします。至らぬ点は多々あったと思いますが、おかえりの際に「楽しかったよ」「ありかちゃん、お疲れ様でした」と声をかけていただき、大変嬉しく思いました。

今井啓示氏をはじめとする万賀夏祭り実行委員会の皆様には、地域交流をさせていただきました。特に会長の今井氏には、帰りが危ないからと自宅に泊めさせていただくなど、大変お世話になりました。ご家族の皆様にもお気遣いいただき、ありがとうございます。

研究室の皆様にも、多くのご指導とご協力をいただきました。昨年研究室で共に過ごした先輩方には貴重なご指摘や助言、励ましの言葉を頂きました。特に境将司先輩は、卒業後も大阪から加子母に来てくださり、様々な相談にのっていただきました。

加藤光江さん、君島里歩さん、鳥居寛くん、藤井南帆さんには度々、研究の相談をさせていただき、大変助かりました。来年からどんな研究室になるのか、楽しみにしております。

伊藤あづみさん、関谷侑香さん、田中千椰くん、ヨウ・ソウカギョクさんの真摯に研究に取り組む姿勢を見て、私も頑張ろうと何度も励まされました。

そして、同期の山本帆南さん、久田佳明くんには、同じ加子母地区を対象とした研究を進めながら、共に考え、研究においても多くの指導と協力をしていただきました。3人とも外部入学のため、不安になりながらもお互いに助け合い、切磋琢磨できたこの2年間は、とても充実したものでした。

ありがとうございました。

最後に、いつも暖かく支えてくださった、家族の皆様には感謝いたします。

2020年1月30日 山崎有香